

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1993 2・3

<基本構想(案)発表に当たって>

理事長 長岡貞夫

春の訪れを待ち兼ねたように植物達がいっきに芽を吹きだしています。

I F I '95 NAGOYA開催準備委員会を中心に昨年より内部的に検討を重ねてまいりました世界インテリアデザイン会議基本構想(案)も、3月29日に準備委員会で正式に承認後、マスコミなどを通じて広く公に発表されるはこびとなりました。

一部内容についてはすでにJ I D NEWS等でお知らせしてまいりましたが、その後NCBと緊密に連絡を取りながら原案の修正・加筆を行ない、ようやくここにいたって輪郭が仕上がりましたので、あらためて皆様へも正式にご報告する次第です。

この基本構想(案)作成にあたっては、ゼロからの立ち上げということで労力も時間も当初の予想をはるかに越え、大変な作業となりました。100%満足いくものではありませんが、おぼろげながらも全体の方向性は見えてきたように思います。

今年10月ごろには実行委員会が発足、準備委員会から実行委員会へ組織的な移行を進めここで具体的な案件についての提案が行われていくことになります。第2の実行段階に入るわけです。この実行委員会の組織化を待ってはじめて、個々の事業計画の立案や運営方法、予算な

目次

●基本構想(案)発表に当たって.....	1
●本部事務局平成6年5月「新宿パークタワー」に...	6
●'92 第4回理事会報告.....	9
●本部委員会の動き.....	12
・教育委員会.....	12
・国際委員会.....	12
・交流委員会.....	12
・展覧会委員会.....	13
●事業支部の動き.....	14
・「中国・明の時代の家具」講演会.....	14
・'93 J I D関東事業支部新春交礼会.....	15
・イタリア研修旅行.....	15
・(One Day Trip to Yamanashi)	19
・「目黒雅叙園」見学会.....	20
・中部事業支部活動状況状況報告.....	21
・関西事業支部活動報告.....	21
・会員相互の交流を軸とした支部活動へ.....	22
●坂田種男会員「藍授褒賞」を受賞.....	23
●中川千年会員「第20回国井喜太郎産業工芸賞」を受賞.....	24
●新会員名簿の進行状況.....	24
●平成5年度「文芸美術国民健康保険」案内.....	25
●会員の消息.....	26
●関連団体等の情報.....	27
●リクルート情報.....	28
●新入会員の紹介.....	29
●会員の異動.....	31
●事務局短信.....	34

「I F I '95 名古屋」メインテーマ

インテリア-新しいうねりの創造
INTERIORS : NEXT WAVE

どについて具体的な詰め作業にかかります。

世界インテリアデザイン会議の成功・不成功の鍵はまさにこの第2段階の作業の出来にかかっていると言っても過言ではありません。J I Dにとって世界インテリアデザイン会議の開催は対外的に大きな意味を持つことになります。言い換えれば会員みなさんひとりひとりの具体的な提案、活動が結果を左右するのです。もちろん、課題も少なくありません。とくに事業計画の基盤となる予算措置については、現在の世界的な経済不況下において困難な状況が想定されますが、魅力ある事業計画を備えていれば必ずや各方面からの協力が期待できると信じます。そのためには開催地となる中部地区のみならず、われわれJ I Dのメンバーが「ALL J I D」の意識を明確に持ち、知力を結集させることが求められます。

本番のI F I ' 95 NAGOYA開催まで2年余。その前段階となるグラスゴー（1993年9月英国）は早いもので数ヵ月先、と間近に迫っています。視察も兼ねて現在グラスゴー・ツアーを組んでいますので、こちらへも積極的な参加をお願いします。

全体のアウトラインを示したこの基本構想（案）を“叩き台”に今後、会員のみなさんの中で活発な議論が展開されることを期待します。

世界インテリアデザイン会議

17TH IFI GENERAL ASSEMBLY AND
BIENNIAL WORLD CONGRESS
NAGOYA 1995

基本構想（案）

1. あいさつ

はじめに

インテリアデザインの国際会議としては最大規模を誇るI F I の第17回世界インテリアデザイン会議（以下、I F I ' 95 NAGOYA と略す）が、関係各方面の方々のご尽力の結果、1995年名古屋で開催される運びとなりました。

この世界インテリアデザイン会議は、I F I 総会開催国がI F I ' 95 の承認のもとに企画開催するインテリアデザインの国際会議です。

「アジアで初めて」となるI F I ' 95 NAGOYAは、インテリアデザイナー、建築家などインテリアの専門家が世界

中から集い、来る21世紀に向けて「生活環境の質を考える」ためのさまざまな提案を行ないます。

この基本構想（案）は世界インテリアデザイン会議開催準備委員会が、I F I ' 95 NAGOYAの開催に関する概要について（株）日本インテリアデザイナー協会の協力を得てまとめたものです。

現在、着々と準備を進めていますが、I F I ' 95 NAGOYAはインテリア関連の業界だけでなく、広く一般の生活者にいたるまで関心をもって受け入れられるものと確信します。

I F I ' 95 NAGOYA 開催の趣旨をご理解頂き、今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。

1993年3月

世界インテリアデザイン会議開催準備委員会
委員長 長岡貞夫

2. 概要

<会議の名称>

和文名：世界インテリアデザイン会議

英文名：17th IFI General Assembly and Biennial
World Congress Nagoya 1995

（略称：I F I ' 95 NAGOYA）

<開催期間>

1995年（平成7年）10月2日（月）～10月6日（金）
の5日間

<開催場所>

名古屋国際会議場ほか

<テーマ>

インテリア——新しいうねりの創造

INTERIORS : NEXT WAVE

<形式>

全体会議・分科会・ワークショップ・イベント等

<主催団体等>

1. 主催 世界インテリアデザイン会議開催委員会

（株）日本インテリアデザイナー協会、（株）インテリア産業協会、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、（株）中部経済連合会、（株）国際デザインセンター、国際インテリア建築家／国際インテリアデザイナー団体連合（I F I）

2. 協賛団体：交渉調整中

3. 後援団体：交渉調整中

<参加規模>

会議参加登録者 1,000名（国内 600名、海外 400名）
を予定（展示会等関連事業参加者は別途）

3. 会議の目的と意義

◆インテリアの分野でもっとも権威のある国際会議

国際インテリアデザイナー団体連合が2年ごとに定期的に開催している総会とともに開かれるこの世界会議は、インテリアデザイナーが主催する国際会議としては最大規模の会議です。デザイナー、建築家、教育関係者、インテリア産業をはじめとする企業人など、広範囲な分野からプロフェッショナルが一堂に会し、共通のテーマを地球的な視野で語り合う絶好の機会となります。

◆高まるインテリアデザインへの期待

高齢化社会の到来、地球汚染と資源の枯渇、東西の対立の消滅、それに変わる民族間の対立など、社会、世界情勢は大きく変貌をとげようとしています。一方、人々の生活のあり方も「量的な豊かさ」から「質的な豊かさ」を志向する方向へ推移してきました。従来のものの価値観やライフスタイルに疑問を抱く人が増え、とりわけ住まい、職場、地域、といった人々を取り囲む生活環境の整備には強い関心が寄せられています。デザイナー、建築家、そして関連産業が関わりあう領域は拡大を続け、われわれ自身、責任の重大性を再確認しているところです。

◆アジア初の開催

IFI' 95 NAGOYA のもうひとつ大きな特徴は、1965年にスタートして以来すべて欧米の主要都市で開催してきたIFIの会議がアジアで初めて開催されるという点です。急激な技術革新と情報化の影響も手伝って世界中で否応なく進んでいるイデオロギーの崩壊は、同時に経済的な視点による新たなリストラクチャリングを産み出しました。アメリカ、カナダ、メキシコで構築している北米市場、具体的な動きが活発化しているEC市場、そして日本や韓国、台湾、シンガポールを中心とするアジア市場。インテリアデザインの分野でもこの3つの巨大マーケッ

トへの取り組みをどうするか、が大きな課題となっています。とりわけアジア地域については高い技術力と生産性が評価され、現在もっとも注目を集める市場となっています。国際化、ボーダレス化の波の中で「国」という固定の観念だけでなく、地域、民族、歴史、伝統、風土といった側面からインテリアデザインを考えることは、今後の世界マーケットでの展開を考えるうえで不可欠な要素となっていくでしょう。

◆デザイン都市・名古屋での開催

名古屋地区には古くより家具、繊維、陶磁器そして自動車、鉄道車両などのインテリアデザイン関連の産業が集積しています。この名古屋でICSID' 89に引き続き、世界中のクリエイターを迎えグローバルなデザイン会議を開催することは、デザイナーはもとより国内外のインテリアデザインに関わる全ての人々と業界に大きな刺激を与え、測りしれない波及効果をもたらすと確信します。

◆21世紀へ向けた具体的な提案づくり

IFI' 95 NAGOYAで、われわれは「地球の未来と人間と環境のより望ましい調和を求めて21世紀を展望する新しい提案」を模索します。デザイナー、インテリア関連の産業界の人々、そして一般の生活者が直接出会う場として、各種シンポジウム、展覧会、イベントなどを関連事業として検討しています。これらの企画に期待するのは、「環境としてのインテリア」に対する人々の関心が高まることだけではありません。ここで生まれる提案が産業界にさらなる刺激と事業の新しい方向を与え、またデザイナーにとっても「新しい世紀に向けたデザイン倫理」を見直すきっかけになることを信じます。

日本が21世紀に向かって求める生活の質の向上、即ち生活大国としての日本のあるべき姿とは何か。この一連の事業を契機に、1995年をインテリア・イヤーとしてとらえ、人間の生活環境を問い直す好機にしたいと考えています。

4. メインテーマおよびコンセプト

インテリア新しいうねりの創造 INTERIORS: NEXT WAVE

21世紀を前に政治的にも経済的にも、また文化的、思想的にも、世界は大きく変わろうとしている。これまで信じられていた概念、基準、といったものが根本から見直され、新しい価値観、新しいスタンダードへの模索が始まった。

インテリアデザインを取り囲む環境も、こうした流れと無縁ではない。人々の関心は、個々のモノの形、機能、価格、といった側面から「環境」「空間」の領域まで広がってきた。過剰なモノ志向への反省から、自然とのバランス、人間同志のコミュニケーションを重視する方向に移ってきた。人、自然、環境、モノを結ぶインターフェイスとして、今まさにインテリアデザインの使命が問われようとしている。

人間環境の空間の創造に関与するインテリアデザイン。社会の期待は今後ますます大きくなっていく。こうした期待に応えるべく IFI' 95 NAGOYAでは、25ヶ国からインテリア、建築の専門家が集い、地球、環境、人間、保存と再生、生活文化を多元的に語り合う。新しい価値観を見いだすための絶好の機会である。新しい時代へ向けた潮流の第一歩である。

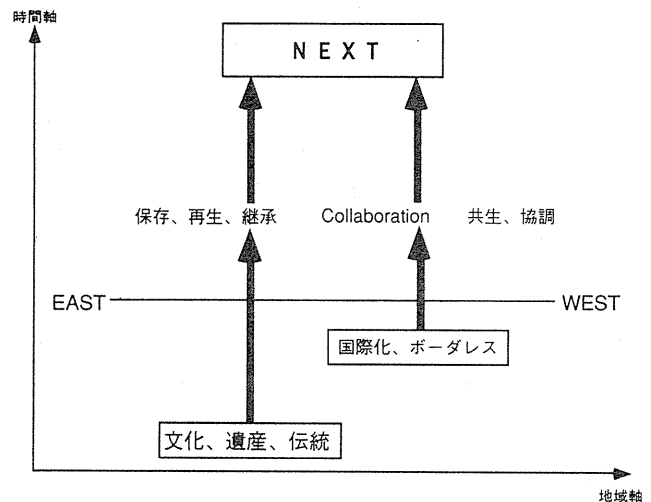
「過去、現在から未来へ」という時間を軸にした視点とともに、アジアで初めての開催となる IFI' 95 NAGOYAにおいては、「西洋と東洋、アジア、日本」という地域を軸にした視点も重要である。

日本は四方を波に洗われる島国である。打ち寄せる波は海岸に砕け、そして新たなエネルギーを得て大海へと帰っていく。

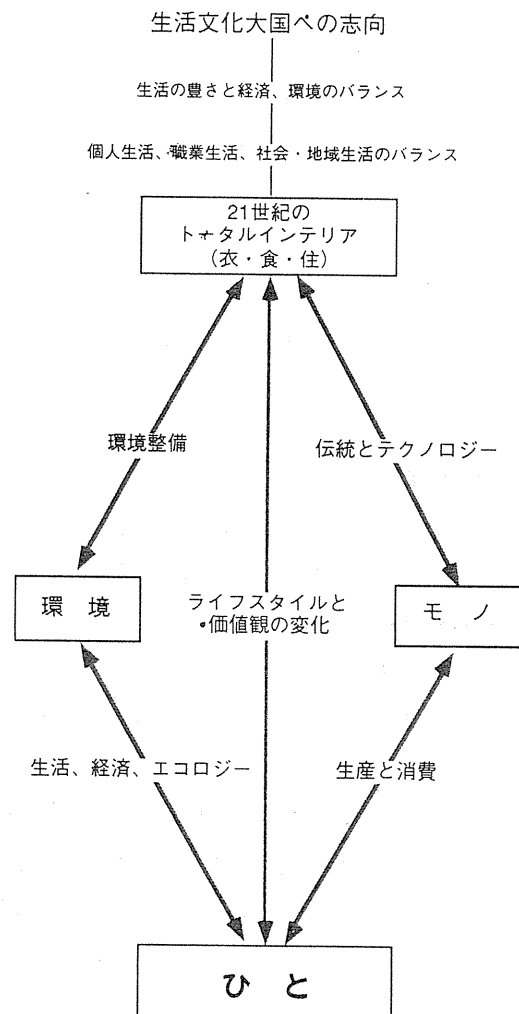
世界中からデザイナー、建築家が集う IFI' 95 NAGOYA。ここで生まれる新しい価値観は、再び世界へもどりそれ

ぞれの国に還元されていく。IFI' 95 NAGOYAは「日本から世界へ向けて返すWave」、「インテリアデザイナーから広く社会へ向けてのWave」を創造する。

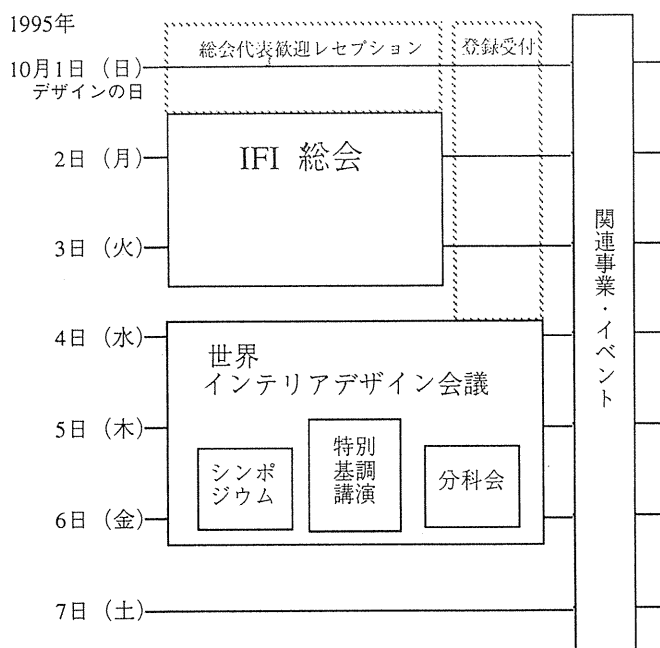
5. テーマの展開イメージ(1)



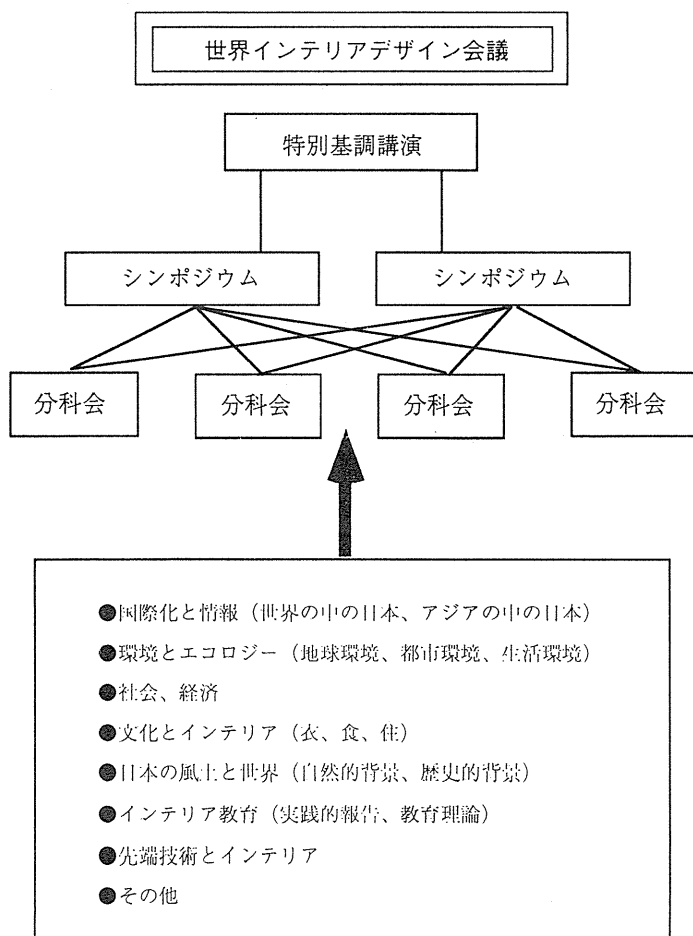
6. テーマの展開イメージ(2)



7. 会議の日程（案）

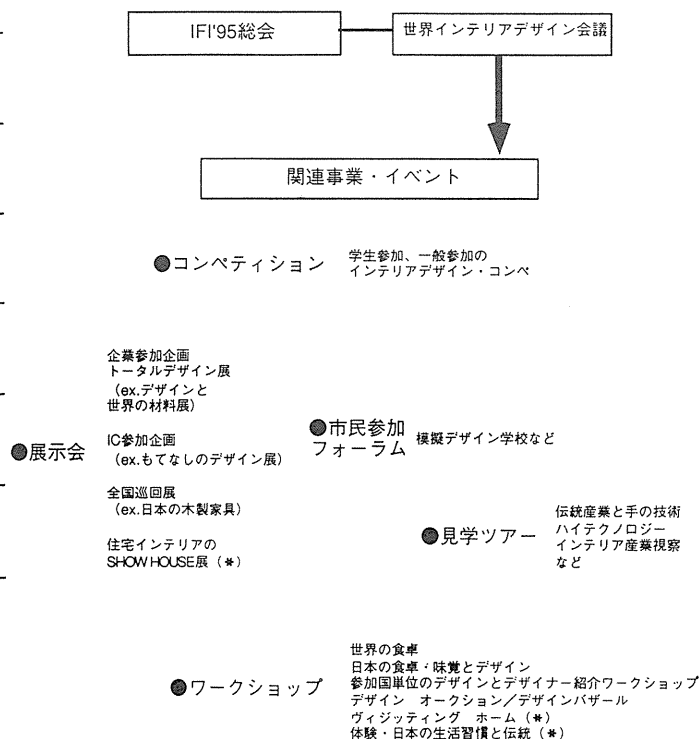


8. 世界会議の内容（案）



9. 関連事業・イベント（案）

関連事業や関連団体のご協力を得て行なう事業計画については、例として下記の案などが考えられます。



10. スケジュール

- 1991年 6月 第15回 I F I 総会にて1995年の名古屋開催決定
- 1992年 8月 「世界インテリアデザイン会議開催準備委員会」設立。
構成団体：(社)日本インテリアデザイナー協会／(社)インテリア産業協会／愛知県／名古屋市／名古屋商工会議所／(社)中部経済連合会／(株)国際デザインセンター
委員長：長岡貞夫（(社)日本インテリアデザイナー協会理事長）
- 1993年 3月 テーマ、コンセプト、事業展開イメージの作成
- 9月 I F I グラスゴー会議への参加
(次期開催都市としてのプレゼンテーション)
- 秋 「世界インテリアデザイン会議開催委員会」の設立
(より広範な関係団体の参画を得て、「準備委員会」を発展的に改組)
- 1994年 プレ事業の実施
- 1995年 世界インテリアデザイン会議の開催
展示会など関連事業の開催

J I D本部事務局を平成6年5月 都庁の隣 西新宿に移転 52階建「新宿パークタワー」8階に

総務担当理事 森 谷 延 周

●これまでの経緯

1991年10月、賛助会員の東京ガス(株)より白石勝彦前理事を経て、建設中の同ビルにJ I D事務局設置に関する打診がありました。これを受けて、長岡理事長を中心に、J I D側としての、入居に関する基本的意向を東京ガス側に伝え、基本的な合意を得ました。

ついでこの件を、1991・第4回理事会(11月20日)に諮った結果、満場一致となり、早々に東京ガス側に返答し、両者の合致を見ることができました。

その後、建物の建設が着々と進む中で、1992年9月、「賃貸借予約契約」の準備が整い、1992・第4回理事会(11月14日)の承認を経て、建主である東京ガスアーバンプロジェクト(株)との間に、同契約を締結し、現在に至っています。

●「新宿パークタワー」と「OZONE」

都市ガスの原料を、ハイカロリーの天然ガスに転換したことで、不要となったガスタンクの跡地に、東京ガスグループの東京ガスアーバンプロジェクト(株)が建主となって建設しているビルです。場所は東京・西新宿の都庁の隣で、規模は地上52階、地下5階、設計は丹下健三・都市・建築設計研究所、平成6年4月末に竣工予定です。

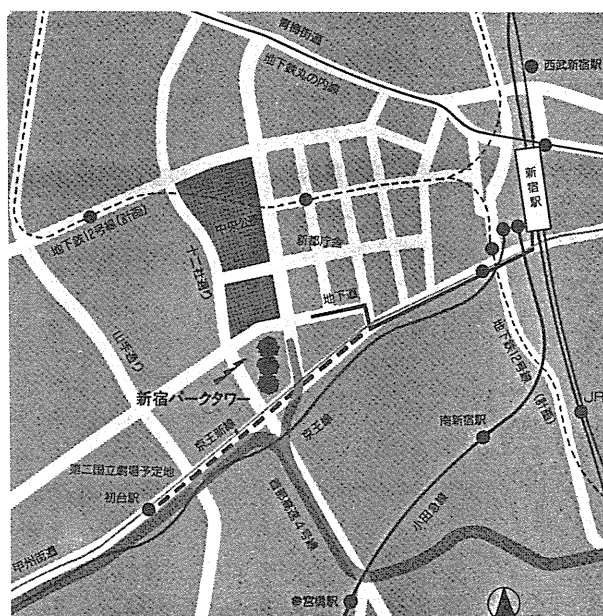
建物の主要施設は、39階以上はホテル、9階から38階はオフィス、3階から8階には、東京ガスグループが自主運営するリビングデザインセンター「OZONE」(オゾン)がオープンします。

「OZONE」の機能は〈住〉に関する情報拠点、住まいづくりのための画期的な施設です。そして「OZONE」は、東京ガスグループの(株)アーバンコミュニケーションズによって運営され、住関連企業約30社のショールーム、データバンク(カタログ、サンプル、書籍、映像ほか)、ショップ、セミナー&スクール、多目的ホールなどで構成されます。

注：リビングデザインセンター「OZONE」については、各2月発行の機関誌「インテリアデザイン」113号 P68～71、「につけいでざいん」P102～109など参照。



・平成6年4月竣工予定の「新宿パークタワー」外観



・新宿駅より徒歩12、3分 地下道、JR、地下鉄、幹線道路など、充実のアクセス網

●本部事務局の移転と今後

ところで、J I D本部事務局が入居するところは、セミナー&スクール、デザイナーズサロン、「OZONE」の運営オフィスと一緒のフロア、8階の一角(69.63㎡)です。

このスペースは現状の2倍となり、委員会など必要な会議や訪問客などへの対応も可能となります。

現在の事務局は、建築家会館の要請により、急遽移転の必要を迫られ、1990年3月に移りましたが、スペース的、地理的など、満足が得られる状況ではありません。機能する事務局として、「I F I '95 名古屋」に備えるだけにとどまらず、日常的な業務、会議、来客への対応などに対応できることと、インテリアデザイナーを中心とした団体にふさわしい「インテリア」であることも必要です。

移転後の経済的負担は現在の2倍となりますが、J I Dの今後の活動のために、この程度は不可欠といえるのではないのでしょうか。

今後の移転準備の中では、この貴重なスペースを有効に活用できることを軸に、まず第一には、全会員が気軽に出入りできる開かれた事務局にしていくことが必要です。第二には、国際交流と共に、関連団体や関連企業との情報交換、協力関係が深められる場にしていくことです。

さらに、リビングデザインセンター「OZONE」が目指す、新しい都市文化の創造と社会貢献の具現化は、J I Dの今後の事業活動にも、いろいろな意味でつながりが出てくるものと思われます。

●「事務局移転準備委員会」がスタート

今回の事務局の移転は、ただ単に引越をするという作業ではありません。

この良い機会を捉えて垢を落とし、J I Dの将来をみつめながら、中・長期の展望に立って、来年の移転準備を考えねばなりません。

一方、望ましい計画が描けても、必ず財政的な裏付けが必要です。平成4年度から3ヶ年計画で移転のための積立ても始めていますが、「I F I '95」や支部の活性化など、ほかにも予算措置しなくてはならないものもあり、その辺のバランスも考えねばなりません。従って、限られた財源のもとで十分でないものは、入居後に継続して充実させていかざるを得ません。

明年に向けて、1992・第5回理事会(1月22日)は、「事務局移転準備委員会」をスタートさせることにしました。初会合を3月初旬に開きましたが、本来の活動はこれからです。良い事務局とするために、会員の皆様から、忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。

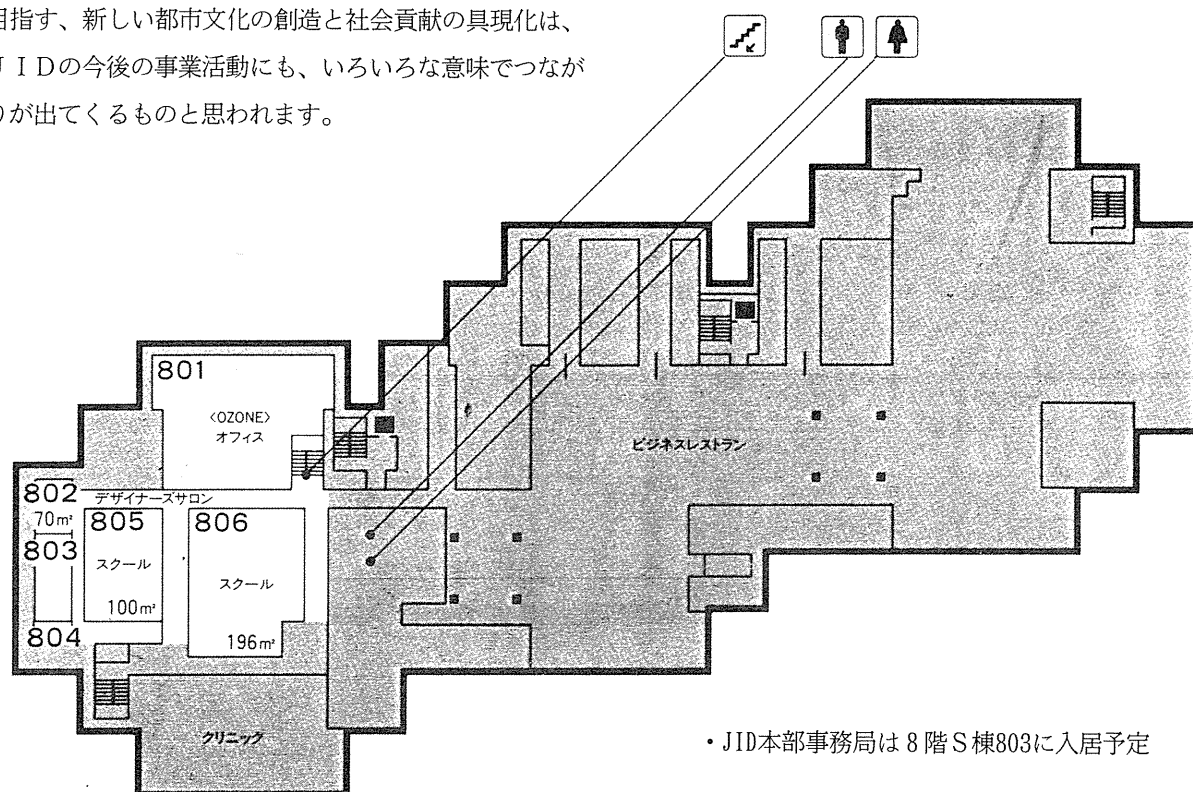
下記のメンバーが、その受け皿となりますのでよろしくお願いいたします。

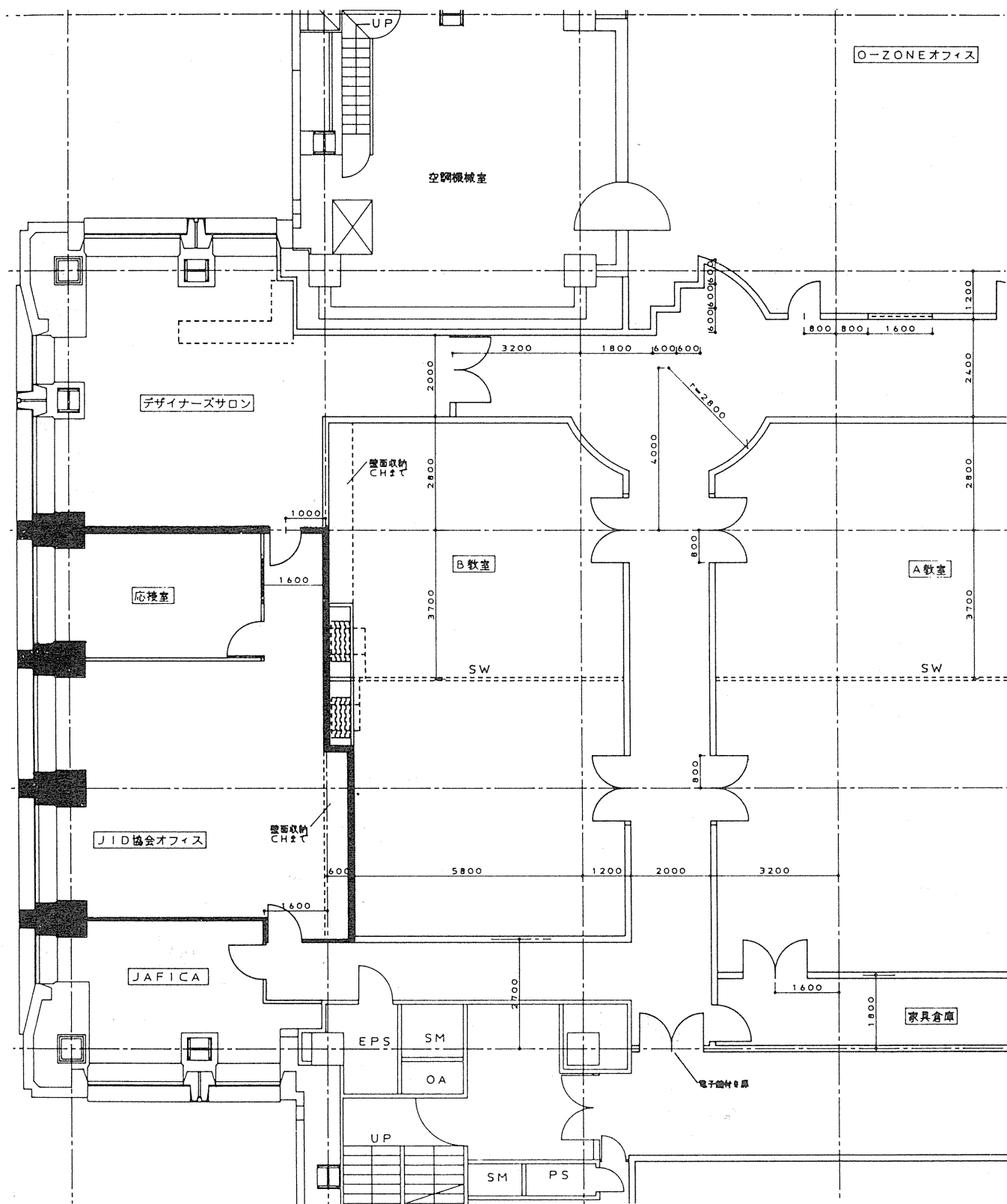
●事務局移転準備委員会

委員長 森谷延周

委員 秋山修治・井上 昇・石井三雄・前原紀雄
・野村禮七郎

統括担当副理事長 泉 修二





・JID 本部事務局はS棟の一角、黒塗り部分。右上にOZONE オフィスが続く。

'92 第4回理事会報告

1. 日 時：平成4年11月14日(土) 11:40～13:10
2. 場 所：九特会館 3F会議室
熊本県熊本市水道町3-37
3. 出席者名：別紙の通り
4. 議 題：

I. 議 案

- 第1号議案 選考委員改選に伴う選挙管理委員会委員長委嘱承認の件
- 第2号議案 本部事務局移転先に対する賃貸借予約契約承認の件
- 第3号議案 事務局移転準備委員会(仮称)設置承認の件
- 第4号議案 JAPANTEX'93 出展承認の件
- 第5号議案 入会に関する案内及び様式改訂(案)承認の件
- 第6号議案 後援・協賛名義承認の件
- 第7号議案 入会承認の件
- 第8号議案 議事録署名人選任の件(2名)

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部委員会事業推進状況
- (2) 平成4年度一般会計上半期収支決算に対する会計監査報告
- (3) 平成4年度通産省デザイン功労者表彰式
- (4) 平成4年度ブロック別デザイン会議開催及び開催予定
- (5) 訃報 加集喜雄名誉会員逝去
- (6) その他
 - ・財務会計報告(9月分)
 - ・会員名簿(平成5・6年版)の出版計画について
 - ・本部事務局へのコンピューター導入計画について
 - ・年間行事予定表(修正版)について
 - ・本部事務局年末年始スケジュール

5. 議 事

野村事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状1名で本理事会は成立した」旨報告がなされた。引き続き、長岡理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 選考委員改選に伴う選挙管理委員会委員長委嘱承認の件

議長は、第1号議案について事務局長に説明を求めた。事務局長は、本議案は'92・第3回理事会において選考委員の選考方法などの問題点を含めて継続審議となったものである。改選に伴う選挙管理委員長には香川顕郎名誉会員を委嘱したい旨説明した。

議長は、第1号議案について理事会に諮り、異議なく承認された。なお、選考委員の選考方法について泉副理事長から報告があり理事会で検討した結果、選挙制度として次年度に時間をかけて検討することを申し合わせた。

第2号議案 本部事務局移転先に対する賃貸借予約契約承認の件(資料No.5)

議長は、第2号議案について事務局長に説明を求めた。事務局長は、平成6年5月に入居予定の「新宿パークタワー」について、同ビル所有者の東京ガスアーバン・プロジェクト株式会社と賃貸借予約契約を締結する旨述べ、賃貸借の条件等について資料に基づき説明した。

議長は、第2号議案について理事会に諮り、異議なく承認された。

第3号議案 事務局移転準備委員会(仮称)設置承認の件

議長は、第3号議案について事務局長に説明を求めた。事務局長は、平成6年5月に入居予定の「新宿パークタワー」内の内装及びオフィス家具などのインテリア計画等諸準備のために準備委員会を設置するものである旨説明した後、森谷総務担当理事が平面図などを中心に補足説明した。

議長は、第3号議案につき理事会に諮り、異議なく承認された。

なお、議長は同委員会設置に伴う委員の人選については、正副理事長及び森谷総務担当理事に一任願う旨提議し、理事会はこれを了承した。

第4号議案 JAPANTEX'93 出展承認の件

議長は、第4号議案について事務局長に説明を求めた。事務局長は、平成5年1月27日より30日までの4日間、幕張で開催される「JAPANTEX'93」について、主催者の(株)日本インテリアファブリ

ックス協会より出展要請があり、前年に引き続き出展するものである旨説明した後、山口展覧会担当理事より出展企画（案）および費用（概算約20万円）について補足説明した。

議長は、第4号議案につき理事会に諮り、異議なく承認された。

第5号議案 入会に関する案内及び様式改訂（案）承認の件

議長は、第5号議案について山品組織担当理事に説明を求めた。山品理事は、この件は前組織委員会が作成した改訂（案）を引き継ぎ、再検討を加え作成したものである。細部については委員会で再度見直し完成したい旨説明した。

議長は、第5号議案につき理事会に諮り、異議なく承認された。

第6号議案 後援・協賛名義承認の件（7件）（資料No.8）

議長は、第6号議案について事務局長に説明を求めた。事務局長は柿の実施または実施予定について説明した。

議長は、第6号議案につき理事会の承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「'92 東京国際家具見本市」 後援

平成4年12月4日（金）～7日（月）

主催 （社）国際家具産業振興会

◎WOOD PRO FAIR'93 協賛

「'93 インテリア・家具・建材の塗装研磨と色材展」（木材の塗装とサンディングの専門展・改題）

平成5年2月28日（日）～3月2日（火）

主催 （株）フォレスト

◎「第6回日本インダストリアルデザイン会議」 後援

平成4年12月4日（金）～平成5年2月25日（木）

主催 （社）日本インダストリアルデザイナー協会

◎第35回『東京インターナショナル・ギフト・ショー春'93』 協賛

平成5年2月18日（木）～20日（土）

主催 （株）ビジネスガイド社

◎第9回『インターナショナル・ギフト・ショー西日本春'93』 協賛

平成5年2月3日（水）～5日（金）

主催 （株）ビジネスガイド社

◎セミナー「人工環境の快適性と健康度」 協賛

平成5年2月18日（木）～19日（金）

主催 生理人類学会

◎国際シンポジウム「アメニティのデザイン」 協賛

平成5年10月5日（火）～9日（土）

主催 九州芸術工科大学

第7号議案 入会承認の件（資料No.9）

議長は、下記6件について事務局長に内容の概括説明を求め、事務局長は各々の資料に基づき説明した。

議長は、第7号議案につき理事会の承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員 5件

氏名	支部名	保証推薦人
鳥井 貴正	関 東	吉良 ヒロバ 黒田 秀雄
碓井 恵里	"	中川 帛子 大木 雅彦
畑中 弘	"	長岡 貞夫 北原 進
田中 邦子	"	山品 元 山本其観代
上野 晴彦	九 州	山永 耕平 森 宣雄

入会 賛助会員 1件

社名	支部	紹介者
株式会社 東京デザインセンター	関 東	下島 資子

第8号議案 議事録署名人選任の件

議長は、議事録署名人に、宇賀敏夫、川上信二両理事の選任につき理事会に承認を諮り、異議なく承認された。

（社）日本インテリアデザイナー協会1992・第4回理事会に関し、定款第27条の定めるところに基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人がここに記名捺印する。

議 長 長 岡 貞 夫 印

議事録署名人 宇賀敏夫 印
議事録署名人 川上信二 印

1992・第4回理事会出席者

長岡 貞夫、泉 修二、栢原 秀榮、川上 信二 森谷 延周、山本 棟子、山崎 晶、浅野 盛治 中川 帛子、宇賀 敏夫、山口 道夫、中川 千年 わたなべひろこ、山品 元
理事総数15名中15名（本人出席14名、委任状1名） （委任状） 渡辺 優
理 事 金子 誠之助
事務局長 野村 禮七郎

（順不同 敬称略）

次回1992・第5回理事会は、平成5年1月22日
（金）東京で開催の予定。

II. 報告事項

議長は、報告事項(1)の各事業支部及び本部各委員会の推進状況について、今回は時間的な制約により提出された各々の報告資料によるものとし、口頭での報告は選考委員会のほかは、特に報告を要するものにとどめたい旨述べ、選考委員会および(2)～(5)について事務局長に報告を求めた。事務局長は下記の通り報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会の事業推進状況

（資料No.1）

・選考委員会 （野村）

「ポスト野口賞」に関して、島崎委員長より事務局長宛に委員会として「当初の目的を10年間で達成したとし、今後はIFI'95を機に、その精神を生かしたい」とのコメントが届いている旨報告した。

(2) 平成4年度一般会計上半期収支決算に対する会計監査完了報告

平成4年11月6日（金）本部事務局において、榎田監事によって実施された。今回から三宅会計事務所の横山課長が立会い無事完了した。なお、

金子監事は委任出席のため、事前に資料を送付し、本日会計監査完了報告書に捺印された。

(3) 平成4年度通産省デザイン功労者表彰式

平成4年10月1日、東京経団連会館ホールで表彰式が行われ次の4氏が表彰された。

栄久庵憲司、八尾武郎、平野拓夫、山中 楨

(4) 平成四年度ブロック別デザイン会議開催及び開催予定

J I Dの出席者及び出席予定者は次の通り

関東通産局 11月5日 浅野関東担当理事

中部通産局 9月16日 官公庁のみ

（諸団体計画中）

関西通産局 11月27日 浅田関西支部長

九州通産局 11月19日 坂下九州前支部長

(5) 計報 加集喜雄名誉会員

平成4年11月1日に逝去された。謹んでご冥福をお祈りします。

(6) その他

・財務会計報告（9月分）（資料No.2）

平成4年4月度～9月度の収支実績について、資料に基づき報告した後、今後の財政の見通しについて報告した。

・会員名簿（平成5・6年版）の出版計画について

A4版約300頁とし、現在2～3社に見積り依頼中。将来を見込んでコンピューター入力を計画している。製作予算は広告収入を基本に、来年5月中旬の完成を予定している。

・本部事務局へのコンピューター導入について

（資料No.3）

会員数増加に伴う会員管理、広報管理、会員および外部へのデータサービスを行うためのコンピューター導入計画について、資料に基づき説明した。

・年間行事予定表（案）について（資料No.4）

平成4年11月より平成5年9月までの行事予定（案）について説明した後、一部修正を加えた。

・本部事務局年末年始スケジュール

年内業務 平成4年12月25日（金）

年始業務 同 5年1月5日（火）

なお、12月28日（月）は通常業務を行なう。

議長は、報告事項(1)～(6)について理事会の了承を求め、理事会はこれを了承した。

なお、議長は、報告事項(4)について今後は通産局に対して必要な資料を事前に提出すること、(6)の本部事務局へのコンピューター導入については、予算上の判断材料を用意し、次年度に備えるよう事務局長に指示した。

以 上

本部委員会の動き

●教育・研究委員会報告

○本部・教育研究委員会が当該期間中に行なった活動は以下の通りである。

- 1) I F I '95 に連動する国際学生デザインコンペティションおよび関連催事の基本案を、I F I '95 常任拡大委員会において提案した。その具体化に関する検討は世界インテリアデザイン会議開催準備委員会に引き継がれることになる。
- 2) J I D会員による学生作品集〈ポートフォリオ〉の指導会を全国的に実施することを提案し、関連事例のある事業支部より情報収集を行なった。
- 3) J I D会員による各種研究会をJ I Dの活動としてオーソライズする可能性について討議した。

○本部・教育研究委員会は、目下、以下の活動を進行中、もしくは予定している。

- 1) J I D会員による学生作品集〈ポートフォリオ〉の指導会を全国的に実施するための具体案を作成する。
- 2) J I D会員による各種研究会の振興の具体策やルール作りについて検討し、その成果を提案する。
- 3) 上記2点を詰めるため、3月中旬に大阪において、本部及び各事業支部の教育研究委員会の代表者による総会を開催する。

(本部・教育研究委員会委員長 清水忠男)

●国際委員会

●第3回APSDA台湾会議の開催日程が決まりました。

APSDA (ASIA-PACIFIC SPACE DESIGNERS ASSOCIATION)の第3回APSDA会議は台湾にて今年の11月5

日から7日まで開催されます。

今回のテーマは ●

“Integration & Decomposition”

ー整合と分解ー

この会議で最先端技術とモダンスペースデザインの概念に関して論議されます。

この会議には会員団体であるJ I Dのメンバーはどなたでも参加出来ますので、詳細が入り次第お知らせいたします。

これに先立ち6月18～22日まで、アジア・パシフィック・リビング・スペース展が台北にて開催されます。作品のポートフォリオ出展ご希望の方は、100ワードの説明を付けて16×20 (インチ) サイズの作品を下記にお送り下さい。

締め切り 1993年5月5日

Power Chain Destination Management Inc.

Secretariat of APSDA 1993

6F-3, 316, Sec. 5, Nan-King E. RD.,

Taipei, Taiwan, R.O.C.

TEL: 886-2-7460585 FAX: 886-2-7671282

問合せ等に関しては直接上記へお願い致します。

●交流委員会報告

交流委員会委員長 藤村盛造

本部交流委員会は2月27日各事業支部の交流委員長及び本部組織委員長並びに各担当理事をまじえての本部懇談交流委員会を開催した。

委員会では主として本部交流委員会と各支部交流委員会との役割についてや、組織委員会と交流委員会の密接な関係について活発な討議がなされた。

各事業支部の交流委員会は既に身近なところから活動を開始し関係機関や関連団体、賛助会員と交流を企んでいる。

関東事業支部は数多くの見学会や、J I D新春交礼会など企画しているし、関西事業支部は毎月、賛助会員を訪ねる定期的なサロン形式のセミナーやミーティングを行っている。九州事業支部では昨年、クマモトアートボリスで関係諸機関との交流の大役を果たしている。

本部交流委員会は関連機関、団体、並びに関係団体や業界などの交流を目的とする名簿の整理や、賛助会員の

業種別、正会員の業態別の区分けなど今後の交流の活性化を図る意味で検討を進めている。

各事業支部、並びに組織委員会の活動状況を参考にし、本部交流委員会は以下の事項を次年度の目標として計画・方策を立てていきたい。

1. 関連機関・関係団体との懇談会
2. イベントの企画と支援など
3. 賛助会員との交流企画など

特に賛助会員との交流は現在の賛助会員が、時の経済状況に左右されずJIDの会員としてメリットとなるような交流の企画を考える必要があり、組織委員会の協力を仰ぎながら進めていきたいと考えている。



本部交流・組織（委）合同委員会

た。

展覧会委員会では主催者の（株）日本インテリアファブリックス協会（昨年社団法人化）よりの出展要請をうけて昨年に引き続き出展することになりました。

今回の出展内容は「IFI'95 名古屋」と「JID」の紹介、'91年度協会賞受賞者中川千早会員の作品展示の他、当日新発行の機関誌「INTERIOR DESIGN」113号や会員名簿などを販売しましたが、連日好天と暖冬に恵まれ、JIDコーナーにも大勢の入場者が訪れ盛況でした。ご来訪いただいた会員各位やお世話下さった方々に紙上を借りてお礼申し上げます。

（本部事務局）



展示コーナー全景



問い合わせに対応する局員

●展覧会委員会

○「JAPANTEX '93」展に出品

第12回インテリアファブリックスショー・JAPANTEX'93 が去る1月27日より同31日までの4日間、幕張メッセの日本コンベンションセンターで開催されまし

事業支部の動き

●関東事業支部

●“中国明の時代の家具”講演会

J I D関東事業支部主催の講演会「中国の明の時代の家具」が1992年12月9日、国際文化会館2階講堂で開催されました。

講師は台湾のインテリアデザイナーで実業家でもある洪達仁氏で、'92 東京国際家具見本市に出展来日された洪氏の申し出を受けて、教育研究・国際・交流の三委員会の共催で行なわれました。同様の会が11月末関西事業支部でも行なわれました。

会は会員・賛助会員・インテリアコーディネーター・デザイン学生と幅広く75名が参加し、スライドによる講演（通訳による）、コーヒープレイクをはさんで質問と、なごやかな雰囲気のうち進行しました。

関東支部としては、これを足がかりとしてJ I Dの外に向けての社会的にアピールする講演会を企画していきたいと考えています。

交流委員会 浅野盛治

●〈中国明の時代の家具講演に参加して〉

常日頃、御無沙汰している先生方にお会いできるのでは、という不純な動機から、12月9日、台湾の洪達仁先生の講演会に参加させていただいたのですが、思わず大変興味深く聞かせていただきました。

仕事柄ヨーロッパの家具、特にドイツ語圏を中心とする地域の家具の歴史については触れる機会も多く、興味を持っていたのですが、中国家具、それも明朝の時代の家具と言われても思い描けるようなものは全くありませんでした。しかし流石に日本文化の源である中国だけあってその家具の歴史、文化には感慨深いものがありました。

明の時代は4世紀もの長きに渡り平和と繁栄の時が流れ、その結果文化の腐敗を生み、それを嫌った人々により「簡潔、重厚、精緻、優雅」なる美しい家具を創り上げた、ということですが、この話を聞くとやはり私は世紀末のウィーンに自然に思いが巡っていきます。

オーストリアのハプスブルグ家はその長い統治により

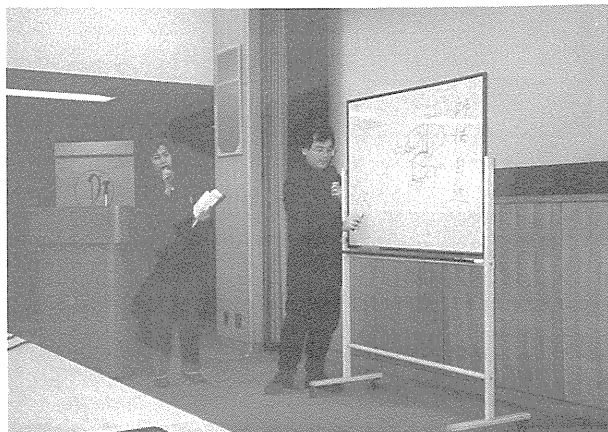
実に多くの文化をもたらしたものの、それは次第に単なる過去の模倣、或いは伝統、権威といった荒廃へと向い、それに対する抵抗としてウィーン世紀末芸術が生まれていったという訳で、時代や風土の違いはあれその歴史的経緯の共通性に改めて驚きを感じました。

ただ明朝の家具は自然、つまり川の流れや山、草木などをモチーフとした造形美でありそのデザインには必ず自然の美しさが表現されているということで、こういったデザインコンセプトに関してはヨーロッパの家具に対する考え方とは当然ながらかなり異なるという印象を受けました。

家具イコール、ヨーロッパという連想しかなかった私にとって今回の講演はまさにこの東洋にも素晴らしい家具の文化があるという、大きな発見をさせてくれました。

御講演いただいた洪達仁先生、並びに企画いただいたJ I Dのスタッフの皆様深く感謝いたします。

(株)アイディック 藤本文明（賛助会員）



講演する洪達仁先生



講堂で熱心に聴講する会員達

●'93 J I D関東事業支部新春交礼会

1月22日、寒い日ながら天候にも恵まれ、午後6時30分より国際文化会館に於いて交流委員14名緊張のうちに木遣の歌とともに関東事業支部小坂支部長の開会の辞に始まり、長岡理事長挨拶ののち、来賓の通産省宮崎修二検デ室長、新日本建築家協会鬼頭会長、インテリア産業協会岡田会長、日本パッケージデザイン協会金子理事長よりご祝詞をいただきました。

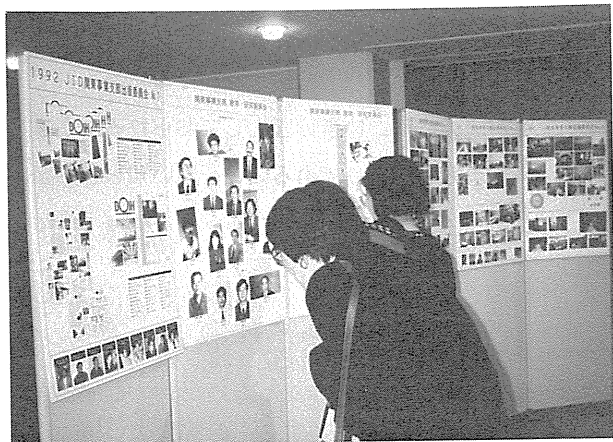
今回は特製J I Dラベルの小樽ワインにて乾杯の後、懇親を深め、名刺交換や知人紹介などの和やかなひとときを総勢 145名という盛況ぶりで会場がわき上がりました。

J I D特製ラベルの話を肴に、お料理に舌鼓を打ったあと、新入会の正会員及び賛助会員の紹介の後、浅野理事より各人の抱負を伺い、斉藤交流委員長の開会の辞にて少し早めのお開きになりました。

昨年より会場入口に各委員会の活動パネルを展示して好評を得ましたが、今回はさらに中部支部のパネルも加わり、より会員の交流及び活動がわかるようになりました。本年も新しい企画をたくさん用意致しますので、皆様の積極的な参加をお待ち致します。

なお、パネル作成にあたり、各委員会のご協力に心から感謝申し上げます。

関東事業支部交流委員 道 明 美千代



委員会及び各事業支部のパネル展示



交礼会会場風景



香川名誉理事の発声で乾杯

●イタリア研修旅行にて

関東事業支部 小 坂 希八郎

イタリア研修旅行という堅いタイトルになっているこのツアーに参加したのも、まことに不謹慎なことで申し訳ないのですが、関東支部国際委員長の下島さんの大変なご努力で激安な費用にいただいたことにひかれ、8日間をのんびり過ごしてやろうというのが本心でした。30人のパーティの団長ということにされてしまいました。委員のみなさまのご尽力で立派な案内書をつくってもらってましたし、綿密なスケジュールにのって6都市を予定どおり案内いただき、ただくっついていだけの名ばかりの団長で、このシーズンにはめずらしく暖かい、よいお天気に恵まれたイタリアをのんびりと満喫することができ、十分に充電してきたつもりです。

8日間で6都市というのはやはりハードです。ローマ、

フィレンツェ、アッシジ、シエナ、ヴェネツィア・ヴィ
 チェンツァ、ミラノとまわったのですが、ほとんどおの
 ぼりさんではなかったかと思います。それでも、最後の
 ミラノでは研修旅行にふさわしく企業訪問などあり、さ
 すがにみなさんプロだと感心しました。仕事にかえれて
 ホットしたかのように、いきいきとしておられるようす
 がうかがえ仕事人の集まりであることを思い知らされま
 した。



ローマ／カンピドリオ広場よりフォロ・ロマーノを望む

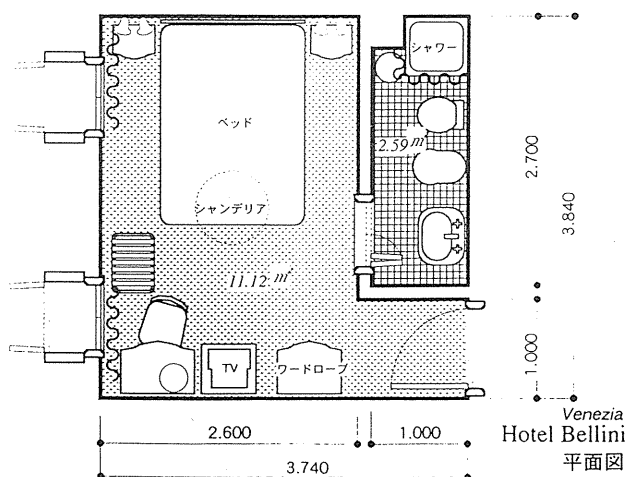
修復・再生のエネルギー

さて、ミラノの研修のことはあとでふれるとして、ロ
 ーマのコロッセオはやはり素晴らしいものです。紀元80
 年、ほぼ2000年前にたったの4年間の工事で完成したと
 のことです。4万人を収容するスタジアムであり、当時
 は東京ドームのように天幕がかけて使われていたとい
 います。その技術力の高さに圧倒されることはもちろんで
 すが、この大きなスケールの建造物のあちこちに魅力的
 な空間がちりばめられており、あきさせてはくれません。
 デザインの源泉は2000年前にすべてあったといわれま
 す。まさにそのとおりだと思われま。

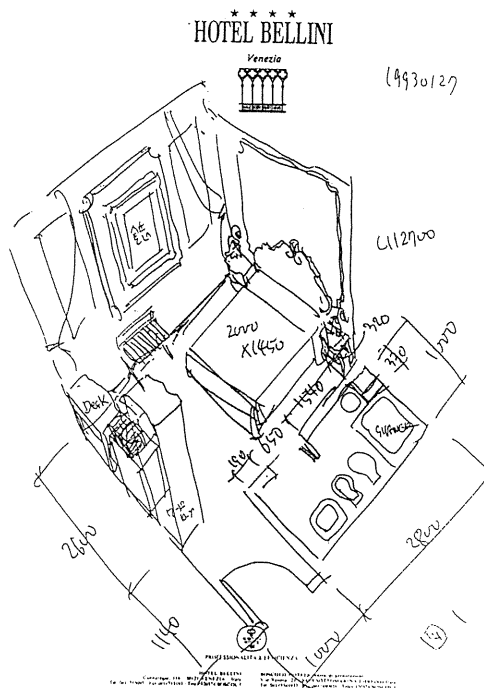


ヴェネツィア／ホテル・ベリーニのアトリウム
 (少々少女趣味か)

しかし、この建設にどれだけの人力を動員したのかは
 かりしれない思いがします。サン・ピエトロ大聖堂やフ
 ィレンツェのサンタ・マリア・ノベラ教会など、いく
 つか見てまわった大空間を見るたびに、宗教のパワーの
 偉大さを思うと同時に、人間の力の貴さを感じます。同
 行の山岸さんが「すべて奴隷の犠牲のうえでできている
 んだ」とおっしゃるように、それほどヒューマニストに
 はなれないものの、かつての被植民地の人たちの労力に
 よって築かれたこれらの遺産を、いまそれを保存するの
 は、立場が対等になったそれらの諸国の人たちのため
 にも、この国の人たちは贖罪としてやっているかとも考
 えてしまいます。



ヴェネツィア／ホテル・ベリーニ平面図
 (ミニマム空間でもスケールが絶妙で心地よい)



同ホテル室内取材スケッチ

こうした保存は60年代以降、法的な規制が敷かれるようになったようで、どの街も心地よいたたずまいを見せています。とくにヴェネツィアの町並みは徹底しており、赤みのある淡い褐色で統一されているのが大変印象的です。こうして保存していくには大変な投資が必要になっているに違いありません。修復・再生のことを「レストロウ」というそうですが、カナルに工事用のシャベルカーならぬシャベルボートが浮かんでいるのが見かけられたように、レストロウが盛んにおこなわれています。とくにインテリアを改装したものが素晴らしく、過去のしっかりとした建物とモダンなインテリアとの対比が鮮やかです。駆け回るのにいそがしく、建物のなかをのぞく余裕が少なかったのが残念でしたが、スカルパのデザインによって63年に改装されたキューリーニ・スタンバーリア財団のインテリアは空間のプロポーション、材料の使い方やディテールがしっかりしており、古典に負けない手のかけ方をし、古い建物と対決しているようで、現代にも息づくイタリアの底力を見た思いがします。



ヴェネツィア／工事中のシャベルボート（バス・タクシー・消防車まですべてボート）

古典に学ぶ

行程もおしせまりミラノについた夜、東京デザインセンターの船曳副社長のおとりはからいでマリオ・ベリーニ氏と会食する機会をもつことができました。ツアーのなかの十数名に現地にいらっしゃるとテクノ社のデザイナーの九後さんと住商ファイングッズの建築家の黒瀬さんに通訳をかねて入ってもらい、大変有意義なひととき

を過ごすことができました。氏はいまやイタリアを代表する建築家であり、50人のスタッフをかかえて日本でも活躍している大御所ですが、大変温厚な人柄で、非常にエネルギッシュに語ってくれました。そのなかで「私のお手本は古典にある。15世紀の美術家・建築家であるジョルジョ・ヴァザーリの本を愛読している。みなさまにもぜひおすすめしたい。」とのことばに氏の創造の秘密を見た気がしました。

さきにも書きましたとおり、全員が期待していたアイデア社とテクノ社の訪問でようやく研修旅行としての「締め」をすることができ、得るところは大変多かったのではないかと思います。カーデザインを主とするデザインスタジオであるアイデア社で強調していたことは、設計にとりかかる前にクライアントの生産能力を把握するために、工場の整備などを徹底して調査するといったのが印象的でした。また、テクノ社では工場を見学することができたのですが、一見するかぎり日本の家具工場と違いはないのですが、よく機械化されたなかで、働いている人たちはすべて手加工にたずさわっていて、仕事に愛着をもって働いている様子が伝わり、どこことなく日本よりも人に優しい雰囲気があるように感じられました。

日本のストックを見直そう

このツアーのテーマは「イタリアの芸術・文化の活力源はなにか？」を探るとなっています。あえて一言でそれに答えるとすれば、「古典を見直そう」と教えられたツアーだったかと思います。各都市で大切に保存しているストックを見せつけられ、ベリーニに古典を示唆され、アイデア社・テクノ社では技術の大切さを教えられ、バブルが崩壊したいまこそ私たちが前につき進むだけでなく、チョット振り返ってみる必要があるのではないかという思いを強くしました。日本にも保存するに値するストックや西洋にも負けない古典はたくさんあります。私たちのデザインを世界に通用する魅力のあるものにするためにもっと勉強しなければならないのではないのでしょうか。

最後にこの紙面を借りて、お忙しい中を2日間もの時間をさいていただき、私たちのためにご案内の労をとっていただいた九後さん・黒瀬さんに厚くお礼申し上げます。

●イタリアツアーを終えて

創造力の源泉を訪ねたイタリアへの旅、総勢32名の訪問者達の運命や如何に？

フランクフルト経由で先ずローマ。古都ローマの素晴らしい建築群、コロッセオそしてミケランジェロを感嘆させたパンテオン、息を呑むほど豪華なサンピエトロ寺院等をつぶさに見て廻り歴史的な都市を再確認することが出来ました。

そして、ローマの次はフィレンツェに向かい、途中聖フランチェスカ縁の聖地アッシジと、ホタテ貝の形で有名な広場を持つシエナへ立ち寄り、共に中世の面影が強く残る印象深い都市でした。

アッシジでは、サンフランチェスコ教会のジオット作のフレスコ画と外の景色のノスタルジックな素晴らしさに驚き、シエナでは入り組んだ街並みを歩き人間と街空間との調和がとても良く、気持ちが落ち着く雰囲気は古都ならではと思いました。

その日のうちにフィレンツェに着くともう辺りは暗く、ハードな日程にさすがお疲れ気味かな？ と様子を拝見すると、皆イタリアンアドレナリンの分泌によって元気はつらつでありました。

さて、フィレンツェでは各自ルネッサンスアートの街へ飛び出しボッティチェリ等の納められているウフィツィ美術館や、サンロレンツォ教会、或いはジオットの塔へ昇り眼下のフィレンツェの街並みを見るなど、見るもの沢山時間少しの条件の中、とにかく歩くことで自己存在の確認を目指したのです。

憧れの都フィレンツェの次は、いよいよ水の都ベネツィアへ向かい水上都市＝水中都市？ の危ない情報を頭の片隅にチラチラさせながら、やはり陽の落ちてしまった水上都市へ無事到着。

虚ろな意識のままバスからホテルへ向かい部屋でトランクを下ろすと、眠気も覚め気分一新夜のベネツィア探検へ各自出発。

日通旅行の樋口氏より『良い旅は景色へ溶け込むこと』だと言われ、信じた数名はそぞろ歩きに夢中になり気が付くと周りは皆どこかへ。アレッ？ と3名程の仲間は、腹が空いていることを忘れたことを後悔するのです。道々聴くとはなく聴いていたレストランのあのメニュー何処へ……？

アドリア海の奥のベネツィア湾のラグーナの上にある

水上都市は、中世の動乱の時代異民族の侵入に対抗するため安全なラグーナの上に都市を築く必要があったのでしょう。

逆S字のカナルグランデを中心に様々な小運河が道路としての機能を構成し、島々は教会を持つ広場（カンボ）を要としたまるで迷路の様な小道ばかりの都市であり『迷宮』と呼ばれる所以であります。

広場を歩いてみると中央に井戸があり、これは広場＝雨水の貯水場になっているためで広場の地下に染み込んだ雨水を中央部分の一段高くなった井戸より汲み上げることで昔のベネツィアの人々は生活していました。しかし、身分によっては割当がやはりあったようです。

ベネツィアはこのように様々な要素を持ち街そのものについても興味が尽きることはありません。

カナルグランデを舟の上で楽しみながら周囲の建築を眺め、辿り着くのはやはり、ピアッツァサン・マルコでした。

ナポレオン曰く『世界の大広間』は素晴らしい大空間で象徴的な2本の円柱が水上からの正面を飾り、其の右側の円柱には聖マルコを示すライオン像が置かれているのです。マリンプルーの水面からアプローチするピアッツァサン・マルコはサンマルコ寺院の正面に広がり、80m×175mの広場でドウカーレ宮殿、旧図書館や博物館に囲まれたカルネヴァーレ（謝肉祭）にも使われるイメージ豊かな広場でした。

現在日本で盛んに開発されているウォーターフロント計画或いは街づくりの本物がこのベネツィアに見られ歴史的背景とは別に、その構成要素は新しい街づくりへのガイドブック的存在ではないでしょうか。

そぞろ歩きの街、迷宮の都ベネツィアの印象を目に胸にまだまだ続くイタリアの旅はいよいよ最終の地一路ミラノへと向かいました。

ミラノへ向かう途中、建築家バラディオのロトンダ等の建築を見ようとヴィチェンツァで下車、イタリア的な街の中にバラディオは見事に溶け込んでイタリアの奥の深さをつくづく再確認いたしました。500年たった日本の都市の景観はいかほどのものなのでしょうか？……少し心配。

そして最終の訪問の地ミラノでは、更に盛り沢山のメニューでした。着いた夜のマリオベリーニ氏との歓談会を手始めに翌日早朝よりバスでカーデザイン会社（イデ

ア社）を訪ねる為トリノへ向かいました。

高速道路からトリノ市内へ入り、さらに山道を登りアイデア社へ。

貴族の館を買い取りオフィスに改造したという館の中へ通され、ビデオによるアイデア社の仕事ぶりがイメージたっぷりに紹介されました。

その後より具体的なデザインワークについての説明をしていただきました。

アイデア社の技術はイメージに流れ易いデザインビジネスを、より効率的な完成品を追及するためのシステムビジネスです。企画デザインの段階からエンジニアリングの工程までを念頭に置いたワークの進め方がポイントになっているそうです。

それがフェラーリ、イタルデザイン等の有力なライバルに対してよりシステム化されているのではないのでしょうか。

その辺じっくりと話し込みたい思い（話せれば？）を断ち切り（記念写真はオフィスの前でちゃんと……）、最後の最後、家具メーカーであるテクノ社へ行く為ミラノへ戻りました。

テクノ社では会議室でのレクチャーと工場見学をさせていただきました。

不覚にも私はダウンしてしまい工場見学はパスさせていただき、テクノ社敷地内の医療施設の方を見せていただきました。（……オセワニナリマシタ。）

その夜はテクノ社の好意でミラノ市内にあるショールームでパーティをしていただき、ワイン片手に最新のファニチャーを見ながらの楽しいひとときを過ごさせて頂きました。

今回のツアーではリーズナブルで有意義にといった贅沢な企画でしたが、ツアーコンダクターの樋口氏のユニークなガイド振りも楽しく、思い出深いツアーとなりました。関係された皆様に感謝致します。

そして、最後に訪問先への御紹介、御案内等力を貸していただいた皆様は、東京デザインセンター副社長の船曳氏、住商ファイングッズ社部長、同イタリア駐在黒瀬氏、デザインクラブインターナショナル副社長栗原氏、三井物産小林氏の方々に紙上にて御礼申し上げます。

関東支部国際委員 佐藤 敬



ベリーニ氏と



トリノ校外／I・D・E・A社の前でコレック取締役とピアッティ部長を囲むツアーのメンバー

● 〈One Day Trip to Yamanashi〉

＝ 日頃より酒を愛して止まぬ面々、
相集いて“蔵聞きに行く”の巻 ＝

2月13日（土）は、この季節には珍しく朝から暖かく抜ける様な青空で、絶好の行楽日和となりました。あずさ7号の車窓から青い青い空を背に、雪を頂いた富士山、甲斐駒山、八ヶ岳連峰の雄姿を眺めつつ、新酒との出会いに胸トキメかせて一路小淵沢（目指すは山梨銘醸株）へと向かいました。

酒七賢の山梨銘醸は、古い屋並を残す旧甲州街道沿い甲州台ヶ原の宿場に在り、正面軒下の大きな杉玉が遠来の客を迎えてくれました。

まずは、店頭で甘酒が振る舞われ、続いて酒の香りの充満した酒蔵見学、おまけに明治天皇の御在所も拝見したところで、いよいよ待ちに待った利酒の時です。アレが美味しい、コレが好き、ドレもまあまあと飲ん兵衛達の好みは様々でしたが、皆この時が一番イキイキしてい

る様に窺えたのは、下戸のひがみと言うものでしょうか。

さて、下戸も飲ん兵衛も共に楽しめる旅のもう1つの目的は、同社・慶應蔵で開催中の「新郷笙子墨による作品展」を見る事でした。

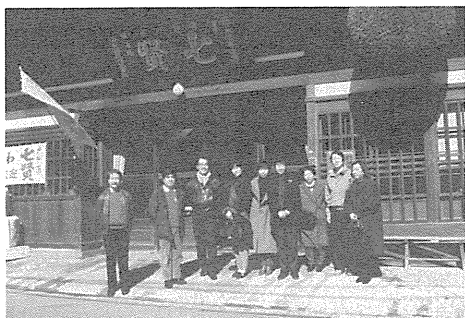
店先のホロ酔い気分の快活な喧騒とは対照的に、昔ながらの白壁土蔵には、酒が夏の間静かに熟成の時を待つ大きな貯蔵タンクが並び、冷え冷えと研ぎ澄まされた空気が漂っていました。そのタンクの前に、あるいは木樽の大蓋を敷いた床に、新郷さんのダイナミックでアブストラクトな墨絵の屏風等の作品が展示され、酒蔵は一転してアートの世界となっていました。作者にも色々な話を伺い有意義な時を過ごす事が出来ました。

帰途、長坂町で本藍染をしている尾白さんの工房を訪問。酔い覚ましのコーヒー等頂きながら、次第に暮れてゆく山々の様子をただのんびりとうち眺め、何時の間にか暖炉にくべられた薪がパチパチと弾ける頃に、尾白邸を後にしました。

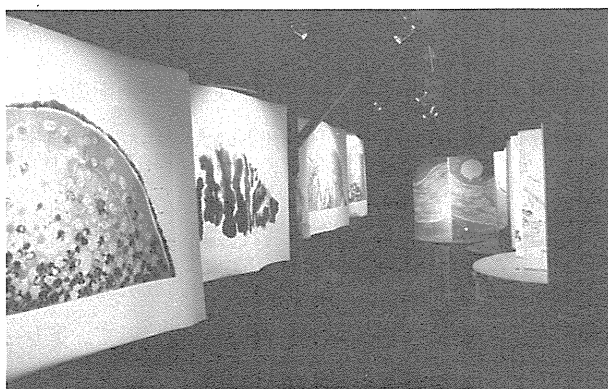
その日、甲州台ヶ原を吹き渡る春風に、身も心もリフレッシュした楽しい1日でした。

- ・参加者－有志 8 名
- ・新郷笙子氏－会員、谷本邦彦氏夫人

(関東支部交流委員 入 江 すぎ枝)



七賢の店前で新郷氏を囲んで



古い酒蔵で開かれた作品展

〈目黒雅叙園〉見学会〉

春の気配も感じられる2月19日、関東事業支部、教育・研究委員会と同交流委員会の共催により、1991年10月に竣工した「目黒雅叙園」の見学会を開催した。

これは教育・研究委員会の「見学シリーズ」の本年度の最後の催しとしてかねてより同委員会杉本副委員長を中心とし企画していたもので、日建設計の御協力により実現したものです。

当日は〈ホテルの時代〉といわれるこんにちを反映してか、会員、賛助会員、計86名の多数が出席した盛会な催しとなった。

「目黒雅叙園」は目黒川に沿った長さ 330mの細長い敷地に建っていた旧目黒雅叙園（別名、昭和の龍宮城）を取り壊し、1985年よりの基本構想から7年間の歳月をかけて日建設計が設計したもので、同事務所の代表作品といえるものである。（施工は鹿島建設）

建物は、旧建物につかわれていた造作材や絵画、木彫板を活用したホテル、バンケット棟、近代的な設備をもったインテリジェントオフィス棟の2つの棟をもつ延べ面積約13万5千㎡、総工費 800億円の近代的な建物である。

今回はホテル、バンケット棟を見学した。

見学に先立ち、中宴会場「飛鳥」において主催者を代表し、関東事業支部教育・研究委員会長谷川委員長の挨拶のあと、同建物のインテリア設計を担当された、J I D会員、日建設計インテリア部長・向井新次氏、同インテリア部主任・井上順一郎氏、同木村照華氏の3氏より企画から完成までの概略の説明を受けた。そして後、約2時間、日建設計3氏の説明をうけながらアールデコ、イタリアンモダン、セミクラシック、ジャパニーズモダン、リゾートの5種のインテリアデザインのスタイルのロイヤルスイートからジュニアスイートまでの各タイプのオールスイートの客室と、伝統ある旧施設の美術、装飾品を生かした極彩色豊かな大小宴会場を見学した。

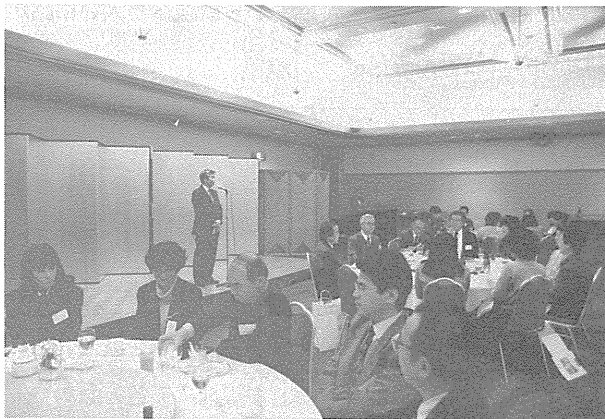
見学後、日建設計の3氏を囲んで約1時間の交歓茶話会を行い、目黒雅叙園が持っていた豊富な美術工芸品及び造作材をインテリアにどう生かすか等、設計にあたっての内輪話をなごやかな雰囲気の中で聞き散会となった。

日本のホテル創設期から数えて約 100年、第5期のホテル盛隆期になっているといわれる今、61室の客室全て

がスイートルームという経営方針と、特色あるホテルデザインが注目を集めている当雅叙園での今回の見学会が参加者の皆様のデザイン活動上での参考になったことと思います。

末尾ながら、本会開催に御尽力を頂いた日建設計の方々、又、目黒雅叙園の関係者の方々に紙上を借りて御礼申し上げます。

(教育研究委員会 齊 藤 正 昭)



会場で挨拶する長谷川教育・研究委員長

●中部事業支部

●〈運営委員会〉開催

昨年12月12日運営委員会を開催し、次年度の事業計画について協議した。主なものとしては、(1)昨年、交流委員会が高山で試みた『ふらっとシリーズ・遊行(ゆうぎょう)の会』を支部事業として計画、実施する。この企画は、会員相互の親睦と他支部会員との交流を図るため行うもので、第一回目は三重県の「語らいの里」(大宮町)を予定。(2)会員相互の情報交換の場としての機関紙『NOW』の発行を年3～4回計画、実施する。(3)会員各自の活動状況を一定のフォーマットにまとめる。これは中部の会員作品集の作成及び作品展の企画、実施に向けての準備でもある。(4)中部地区を中心とした地域文化・伝統工芸或いは文化的施設などについて研究・調査活動を計画、実施する。(5)その他研修会の開催・関連他団体の事業への協力……等が挙げられる。当支部としては、来たるべきI F I '95 名古屋の開催地区でもあり、特に(4)の活動については積極的に取り組みたい方針である。

●〈手づくりの新年会〉開催

1月23日、中部事業支部の新年会を行った。毎年恒例の行事ではあるが、今回は一寸趣きを変え、ホームパーティー形式で行った。立役者は、千葉総務委員長。当日の料理を自ら調達し、更に、活きの良い魚を仕入れ、会場で包丁捌きよろしく見事な刺身に。それを漆の器く協力：祖父江ジャパン〉に盛付ける凝りよう。一方、どて煮も大好評……とにかく、千葉演出には、集まった会員一堂マイリマシタ！ 又、中島広報委員長が、エジプトを訪れた時のスライドを上映、楽しいひとときを過ごした。想えば、'91 シカゴ会議では、様々なパーティーが企画された。博物館で、水族館で、又、ミシガン湖を回遊し乍らの豪華ヨット・オデッセイ号でのパーティー、そして仕上げは、シカゴ商品取引所で、まさしく機械の立ち並ぶ中で行われたフェアウェルパーティー。アイデア如何で、洒落た演出が出来る。I F I '95 名古屋では、工夫の^{もてなし}で遠来の人達を迎えたいものである。

中部事業支部長 池 田 高 明

●関西事業支部

●年賀交歓会

(財)大阪デザインセンターと大阪デザイン団体連合の共催による恒例の〈年賀交歓会〉が、1月11日心斎橋のオセイリューで開催された。行政、デザイン振興団体、産業界、各分野のデザイナー百数十名が参集、(財)大阪デザインセンター理事長新井真一氏の年頭挨拶に始まり、歓談、フィナーレは本場ブラジルのサンバチームのショウに続いて来会者も参加しての踊りの輪が繰り広げられ、素晴らしい盛り上がりを見せた年賀交歓会であった。

●支部情報誌〈ECHO〉創刊記念パーティー開催

関西事業支部情報誌〈ECHO〉の創刊記念と、新年交歓会を兼ねたパーティを1月25日難波高島屋の五色園で開催した。賛助会員を含め会員間のコミュニケーションを増進するための方法の一つとして、更には関西からのインテリアデザイン情報の発信源となるような情報誌を発刊するべく以前より検討してきたが、幸い多数の企業からも協賛を得ることが出来、出版委員会を中心に創刊号の発刊にこぎ着けた。

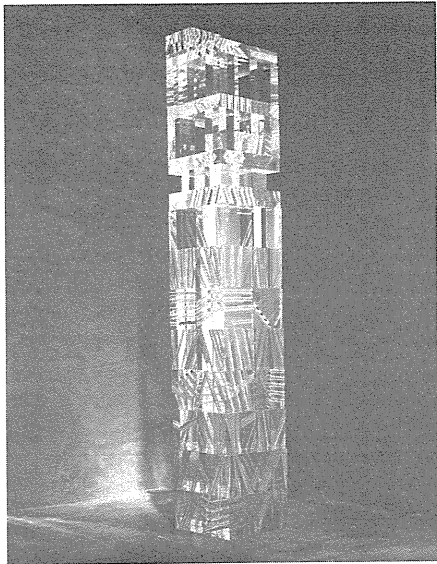
当日は会員、スポンサー企業の皆さん方など40数名の参加があり、和やかな歓談と、おたがいの情報交換の場

となった。

第2号は5月発行を予定しており、編集作業がスタートしている。

●夏原晃子会員の作品入賞

昨年11月に開催された大阪府・大阪府文化振興財団主催の国際美術コンクール〈大阪彫刻トリエンナーレ1992〉で夏原晃子会員の作品「四角い帽子」が、世界63ヶ国から集まった3,130点の作品の中から特別賞に選ばれた。作品は夏原さんが10年程前から取り組んでいるアクリルによる作品で、日本人女性では初の受賞とのこと。おめでとうございます。



●〈ECHOの会〉開催

会員間のコミュニケーションの増進を通じて協会の活動を活性化していくため、支部各委員会を中心に相互に連繋を計りながら、いろいろな企画を実行に移している。〈JIDサロン〉が名の如く会員が気楽に集まり肩の凝らない歓談の中で親睦を図っていくのに対して、〈ECHOの会〉は「会員相互の顔がよりはっきり見えれば」という思いで交流委員会が主催して会員・賛助会員の仕事の場を訪問しながら、意見交換及び交流を図ろうとするものです。

第1回は2月24日、賛助会員で事務用品やオフィス家具等で著名なコクヨ(株)大阪本社を訪問、会員でコクヨの社員でもある清家さんの案内で開催中の〈デザインフェスタ〉を見学、その後同社の迎賓館を懇談の場に提供していただき、会員の他にコクヨの社員の方数名も参加、同社に対する理解と参会者相互のコミュニケーションを深めることができた。次回は4月に千田交流委員長のオフィス、クリエイティブ飛行船を訪問、開催の予定。

●インテリア研究会開催

支部教育・研究委員会主催の〈インテリア研究会〉を2月26日大阪デザインセンターで開催。上野忠之会員が、昨年訪米時に視察されたPlimoth PlantationとMayflower II世号についての話を中心に、スライドを混じえて講演された。

Mayflower は1620年にピルグリムス達が英国から米国に渡った時の船でありPlimoth Plantationはその時の入植の地である。当時の模様を出来る限り忠実に復元し、生活の実態も合わせて見せているため(電気、ガス、水道などは全く使用されていない)非常に興味深い内容であった。講演の後、質疑応答から歓談へと大いに話がはずんだ一時であった。

●九州事業支部

—会員相互の交流を軸とした支部活動へ—

平成4年度は、くまもとアートポリス事業一色で塗りつぶされ、このイベントを成功裡に導く事を最大の力点として活動してまいりました。お陰様にて各方面から多大なご支援ご協力が得られ無事終了し、この事が九州支部としておおきな蓄積になったことは、言うまでもありません。また、九州での理事会の開催、そして関東、中部、関西、各支部との交流が深まったことは、喜ばしいことでもありました。しかし、このイベントに参加した支部会員に限られたこともあり、会員相互の意思の疎通や交流がよりよく図れたかどうかは、疑問が残りのステップへの反省点でもあります。

現在、支部では平成5年度の事業活動について、1月、2月と定例会議を開催し本部事業への取組や例会の在り方、各委員会活動内容等について討議を重ねております。

その内容としては

I 本部事業の対応について

(1) 「IFI'95 名古屋」への取組

1995年(平成7年)10月に開催される世界インテリアデザイン会議/名古屋に向けて九州支部として積極的な参加を各方面に呼び掛け、支援協力を進める。

(2) 「グラスゴー'93」への参加

1993年9月、英国のグラスゴーに於いて開催される国際会議には、支部会員へ積極的な参加を呼び掛

ける。(2月の例会では、山永会員によるグラスゴーの市街地や美術学校そしてマッキントッシュの作品等についてスライドによる解説をお願いしました)

II 支部事業について

- ・支部内と役員選挙規定の見直しを図る。
- ・情報の正確な伝達と効率化を進める。
- ・例会の開催方法と内容の検討を行う。

○組織委員会

- ・バランスのとれた組織体制の確立を図る。

○国際委員会

- ・I F I '93 グラスゴーへの積極的な参加を呼び掛ける。
- ・国際交流の推進を図る。

○交流委員会

- ・環境問題についてのイベントを企画する。
- ・パソコン通信への参加を呼び掛ける。

○広報委員会

- ・情報伝達の広がりを検討する。

○出版委員会

- ・支部会報の出版を企画する。(年4回季刊誌の発行。会員の近況等の情報)

○教育研究委員会

- ・研修会、見学会などの企画を行う。
- ・大川工業高校インテリア科の生徒を対象とした啓蒙活動を行う。
- ・大川産業博物館(仮称)の設立と産業資料保存に関する提言と支援を行う。

以上、現在提案されている各委員会メモより要点だけを抜粋して列記しました。このようなことから、各委員会の活動を中心にして支部会員の交流が深まっていくことになれば事業支部としての位置づけも明確になり、ひいてはデザイナーの資質の向上と社会的地位の確立へ一歩も二歩も前進することができるものと考えます。

九州事業支部 総務委員長 石井信義

工業標準化に対して 坂田種男会員「藍授褒章」を受賞

少々遅れてしまった感がありますが、会員の皆様にお伝えしたいと思います。(私が知ったのが遅かったのかも知れませんが)

それは昨秋、J I Dの設立メンバーのお一人でもある坂田種男会員が、藍授褒章を受賞されたというホットニュースです。

藍授褒章とは、教育・衛生・殖産開発などの事業を興し公衆利益に成績著名な者、または公共の事務に勤勉し功労顕著な者に与えられるということが意図とされています。

この栄ある受賞に対して皆様で拍手をおくってあげたいと思います。

以下は、ご自身が受賞に際して語られた掲載記事と、お仕事振りやお人柄がよくわかる掲載記事ですが、ふさわしいと考え、坂田さんのご了解を得て転載させていただきました。

総務担当理事 森谷延周

藍授褒章を受賞して

関東事業支部 坂田種男



受賞の由縁は工業標準化に対する公共の事務に勤勉し、功労顕著と賞状に記載されています。顧みますれば、標準化に関する仕事は、30年程前にISO(国際標準機構)の建築分野で、ミラノ会議に出席した事に始まり、その後毎年2、3回の会議に出席を続けております。一方JIS規格の制定、改正の作業の仕事を工業技術院の工業標準調査会で、臨時委員として協力し、主にドアやサッシ等の建築構材、住宅設備機器や、家具関係の規格120件以上に委員長、または委員として今日迄続けてきました。更に住宅優良部品(BL規格)の評価委員会、製品安全(SG)の製品の認定基準づくりに関係し、現在ではISO規格とJIS等の国内規格との整合、ガットのスタンダードコー

ドに関する調整等の作業を、また、ISOの建築分野における、テクニカルアドバイザーの一人として、新しい国際規格の審議やヨーロッパ規格との調整の仕事を行っています。

●都立工芸高校／築地工芸会会報／平成5年1月より転載。

坂田種男先生定年ご退官

建築学科建築デザイン講座の助教授、坂田種男先生が本年3月をもってご退官になりました。

先生は、昭和22年現在の千葉大学の前進である東京工業専門学校木材工業科をご卒業以来、東京工業専門学校、千葉大学工学部、千葉大学留学生部、千葉大学工業短期大学部そして改組により千葉大学工学部と歴任され、一貫して後進の教育指導に尽くされました。このようにひとつの学校に45年というご実績は極めて希な記録です。

先生の主なご研究は、すでに建築界で広く知られており、ここでご紹介するまでもありませんが、建築モデルとそのコーディネーションに関するものと、建築の性能およびその評価に関するものが中心となっております。この成果をもって昭和44年以来日本工業標準調査会の委員としてJISの制定・改正に尽力され、また昭和37年より日本建築学会ISO TC/59（建築構造一般）の幹事・主査等を務められ、しばしば国際会議にわが国の代表として出かけられ、国際標準化にも貢献されました。そしてこれらのご功績により、昭和53年と平成元年には通商産業大臣の表彰を受けられました。

また先生は、ご健康で今まで風邪ひとつひかれたとお聞きしたことがありませんし、健康診断に行かれてもどこも異常がないとよく話されておられました。学生には人気があり、先生の研究室には多数の配属希望の学生が押しかけ、オーバーした学生を断るのがお辛そうでした。

また、ご趣味も多彩で、車・料理・酒・焼き物・占い・写真等々挙げればきりがありません。夏には軽井沢の別荘に学生を連れて行かれては、料理の腕をふるわれたり、我々がお宅におじゃますると自ら厨房に立たれ歓待して戴きました。またアルコールの方は我々が太刀打ちできない位お強く、またご造詣もありよく研究室に高級ワインをご持参されてご馳走して戴きました。

ご退官に際して、本年2月15日に最終講義が行われ、6月26日には『アデュール竹芝』で卒業生による退官記念パーティーが催されました。

ご退官後は、国際規格関係の委員会のお仕事に専念されるとのこと、益々のご健康でご活躍をお続け下さいませようお祈り申し上げたいと思います。

（田山茂夫 記）

●千葉大学工学同窓会会報／平成4年9月より転載

第20回 国井喜太郎産業工芸賞決定

中川千年会員ほか2氏に

去る2月下旬、第20回国井賞の受賞者が、(財)工芸財団より発表されました。

JIDからは、一昨年第18回の佐々木達三名誉会員、昨年第19回の大泉博一郎、渡辺 力、両名誉会員に続くもので、3年連続の栄えある受賞です。

選考は国井賞選考委員会において、厳正な選考の結果中川千年会員（九州事業支部担当理事）のほか、柳 宗理、川上元美氏の3名に決まりました。中川会員に対する受賞は、「40数年にわたり優れたデザイン、技術をとおして各地の地場産業の振興に尽くした功績」によるものです。嬉しいニュースに全会員で拍手をおくりたいと思います。詳細記事は次号に。

総務担当理事 森 谷 延 周

新会員名簿の進捗状況

昨年末、会員名簿（平成5・6年版）の原稿用紙を会員各位に送付し1月末までに提出をお願いしましたが、提出いただいた原稿を事務局で点検し、目下印刷会社（ユリクリエイト㈱）で初校の準備中ですが、近々に事務局に届きます。

お知らせした通り、今回から、コンピューター入力になったこと、印刷発注先を新しくしたこと等でお手数を掛けましたが次回よりは変更箇所のみ修正となりますのでご容赦願います。

一方、名簿の広告については、広告代理店（㈱アーチフリー）を通じ賛助会員を中心に広告掲載をお願いしています。

今回は年末年始や選考委員選挙投票等と重なり、原稿用紙を紛失された方などが多く、再度原稿用紙を発送したり、作業がやや遅れ気味です。近々に校正作業に入りますが、事務局では当初予定の5月下旬発行を目途に鋭意努力中です。今しばらくお待ち下さい。（本部事務局）

平成5年度「文芸美術国保」案内

会員の中でも、文芸美術国保の有利さから、毎年加入する方々が増えてきています。

保険料は、ここ数年改訂がありませんでしたが、昨年4月実施の医療費改訂により、ここ十年来にない伸びとなったことに加え、老人保険法該当者の医療搬出金が大幅に増えるので、やむをえず保険料を値上げすること

になりましたが、(表)でおわかりのように組合員月額
は8,500円(700円値上げ)、家族1名4,000円(200円値
上げ)なので一般国保より有利だと思います。特に家族数
の少ない方はご検討いただき、ご加入をおすすめしま
す。新年度から50才ドック及び大腸がん検診が新設され
ます。

加入者については、新しい被保険者証(様式は前年通
り、色調は新年度から桜色)及び保険料払込通知書を3
月末に発送の予定とのことです。

文芸美術国民健康保険組合と東京都23区の保険料比較表

(平成4年4月)

	組 合 保 険 料 組合員(月額) 8,500円 家 族(月額) 1人 4,000円 年 額	東京都23区保険料年額 (住民税×107/100+1人につき16,800円) (賦課限度額46万円)					
		5 年 度 の 住 民 税 (特別区民・都民税)					
		10万円	15万円	20万円	25万円	30万円	35万円
単 身 者	102,000 円	123,800 円	177,300 円	230,800 円	284,300 円	337,800 円	391,300 円
家 族 1 名 (世帯人数2名)	150,000	140,600	194,100	247,600	301,100	354,600	408,100
家 族 2 名 (世帯人数3名)	198,000	157,400	210,900	264,400	317,900	371,400	424,900
家 族 3 名 (世帯人数4名)	246,000	174,200	227,700	281,200	334,700	388,200	441,700
家 族 4 名 (世帯人数5名)	294,000	191,000	244,500	298,000	351,500	405,000	458,500

(注) 太線内に該当する方は、文芸美術国保組合の方が収入に拘らず一率料金のためにお得になります。

(株) コ ス ガ

東京都中央区東日本橋2-15-4 〒103
(03)3862-6711
(03)3893-1186 亀井恒男(コスガデザイン部)

(株) サンゲツ 東京店

東京都品川区東品川3-20-17 〒140
(03)3474-1181 田中三千春(営業次長)

住 商 イ ン テ リ ア (株)

東京都千代田区西神田3-1-6 〒101
(03)3237-6700
小川実夫(営業開発室第一チームリーダー)

(株) 西 武 百 貨 店

東京都豊島区南池袋1-28-1 〒171
(03)3987-8360 建築事業部建築部長

創造社デザイン専門学校

大阪市福島区福島6-25-23 〒553
(06)452-0821 (代)
(06)452-5561 明上友幸 校長

大 成 建 設 (株)

東京都新宿区西新宿1-25-1 〒160-91
(03)3348-1111
村上公一(インテリア室室長)

会員の消息

◇ 河原 啓 介

戦後の復興期と共に始まった私のデザイン生活も経済立国日本の歩みと共にあり、更に大きい節目を迎えたことを痛感すると同時に、平素自己周辺の業務に追われ、協会の為に何のお役に立つことなく過ごして参りましたことに汗顔の至りです。お赦し願います。

一方思いを巡らせば、国政の進展も一大転向期にさしかかった現在、吾が協会の内外方面に対する指導的役割にも一層多角的重要性が期待されております。今後共宜しくご指導・ご活動をお願い申し上げます。

最近私は縁あって、今経済解放政策を進めている中国の事物に接する機会が多く、自然に彼の国のデザイン分野の動きに関心を払っております。勿論中国には政治上理念上、まだ克服すべき諸問題、条件等がありますが、将来はインテリアデザイン界にも明るい展望が期待できると思います。私は若しこの方面で、協会活動のお役に立てればと願っております。とりあえず近況を添えてご挨拶と致します。

(関西 正会員)

◇ 梶 原 敏 生

理事長殿より名誉会員への推挙の書類を頂き大変恐縮に存じます。協会発足時より入会、今年の4月にて71才の年齢を数える事になり、あっと言う間の時間の経過でした。今後共自分の作品を大切に、今後もよい作品を作りたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

(関東 正会員)

◇ 吉 住 一 信

ご丁重な名誉会員のご推挙状を頂き、身に余る光栄と存じます。所詮私などは栄光ある貴協会の名誉会員の資格などは微塵もございませんが、有難く拝受いたしたく存じます。

その上は協会の名をけがすことなく重責を果たすよう微力を尽くす所存でございます。しかるべくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

(関東 正会員)

◇ 山 本 桂

『私がトマムで学んだ事』

日本にリフォーム（リモデリング）という言葉が出て11年、リフォーム業界が誕生して10年といわれている。従来の日本の修繕（つくろい直す）から（暮らし向上多機能型）のリフォームが主流になり、全企業の提案力的要素が切り札になっているのが現状である。そのホームインプループメントがICに大きく関係しているのも真実であり、ご存知の通り益々のリフォーム業界の接触が重要になってきている。

今年7月トマムでミサワホーム社長（三澤千代治）さんのお話を聞いたとき、三澤さんは日本は益々発展する、特にリフォーム産業である。2000年までにマーケットは10兆円ともいわれており、そのリフォームは夢を現実にするものであること！ 社会的公共的に価値が増えていくものでなければならぬとおっしゃっていた。

「仕事は力んでするものではなく、上半身の仕事である。とくにリフォームは長いサイクルだから、仕事は自然に楽しく好きでなければ長続きしない。」インテリア、建築、リフォームも完全なサービス業であり、その個々の人の文化性を見られるのである。

現在の時世、インテリア業界は小さな仕事が増え、安い、手間が掛かる、との声が多いが、逆に言えば提案力、マイペースな人材の活躍の場がいっそう増えてくるだろう。

最後に1993年は住環境ルネッサンス元年ということだ！

(関東 正会員)



トマムサミットにて

関連団体等の情報

◇ (株)日本グラフィックデザイナー協会

〈事務局移転〉

JAGDAでは本部事務局を去る2月1日より下記へ移転しました。電話番号は変わりません。

〒150 東京都渋谷区神宮前2-27-14 JAGDAビル

TEL: 03-3404-2557 FAX: 03-340-2554

◇ (株)ニューオフィス推進協議会

〈「今後のオフィスづくりのあり方」解説版発行〉

NOPAでは昨年5月、通産省より公表されたニューオフィス化の第二の指針を解説した「今後のオフィスづくりのあり方」第二指針解説版を出版しました。経営の最重要課題となっている「知恵を産み出す人間」重視のオフィス環境を作るための具体的な視点を提示し、経営者、オフィスワーカー、オフィス管理者三者のオフィスづくりに対する共同の取り組み方を提起しています。申し込み方法などは下記の通り。

記

編集発行: (株)ニューオフィス推進協議会

定 価: 3,500円(税込み)

送 料: 実 費

体 裁: A4オールカラー 112頁

申込方法: 住所、社名、部署名、氏名、TEL No.

注文数を明記し、FAXでNOPAへ直接お申込み下さい。

FAX 03-5472-6925

問い合わせ先: NOPA 小川

☎ 03-5472-5921



グラスゴー会議参加予定の皆さまへ

9月のグラスゴー会議参加を考えている方は前にお送りしているリーフレット「The World Conference for Design in the '90s」のチェックシートにご記入の上、Design Renaissance, Chartered Society of Designers c/o Meeting Makers Ltdにお送り下さい。更に詳しいインフォメーションがイギリスより各自に送られてきます。

◇ 『世界の椅子展』

～ Please Sit Down ～

世界40ヵ国から集めた120点の椅子を展示する『世界の椅子展』が4月7日(水)まで東京渋谷区の“フジタ・ヴァンテ”で開催されている。

アフリカ、アジア各国の椅子など、椅子の源流ともいえる素朴な私たちの椅子を中心に、今まで日本ではほとんど紹介されることのなかったコートジボアールのワニが掘られた椅子、インドネシアの切り株をそのまま利用した椅子、象を型どったタイの椅子、蓋をあけると室内便器として利用できるイギリスビクトリア時代の椅子など、各地の生活文化が反映したユニークな椅子を展示、半数以上の椅子は実際に座ることが出来る。あわせて、世界の椅子2000年の系譜を紹介する年表と、各国の椅子の様式を示した世界地図を作成し、椅子様式の発展と分布を系統だててわかり易く解説している。

会 期: 3月12日(金)～ 4月7日(水)

10時～18時(木曜休館)

会 場: (株)フジタ本社内「フジタ・ヴァンテ」2階

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

☎ 03-3796-2486

JR線 代々木駅下車徒歩5分

観覧料: 無料

追記 この展示にあたり、JIDの泉 修二、鈴木恵三、両会員が計画に参加しています。また、光藤俊夫会員が4月6日(火)18時半より2階ホールで「世界の椅子様式と生活」と題し講演されます。(本部事務局)

◇ 社団法人日本流行色協会(Jafca)では、皇太子殿下・雅子さまのご結婚を祝詞、「慶祝カラー」を選定・発表いたしました。

1部頒布価格3,000円(送料・消費税を含む)

注文はTel, FaxにてJafca事務局までお申し込み下さい。

社団法人日本流行色協会

〒102 千代田区四番町4 日本染色会館 3F

TEL: 03-3263-1694 FAX: 03-3221-6799

リクルート情報

外国人のビジネスの照会が3件来ておりますのでお知らせ致します。

- ① 台湾のインテリア事務所より、日本のデザイナーを探しております。

業種：バー、クラブ、レストラン、カラオケ・ルーム、
ブティック等のショップデザイン、オフィスの
インテリアデザイン、ビルの外装のデザイン等

詳細は直接下記の事務所へお問い合わせ下さい。

松川室内設計専門工程公司

MASU-KAWA INTERIOR DESIGN CO., LTD.

担当者：郭文欽

住 所：台南市健康路2段193號

TEL：06-291-3955

06-291-3953

FAX：06-291-3961

なお、会社パンフレットが事務局にあります。

- ② イギリスのファニチャーデザイナー、ミス・ナザニン・カマリシ氏がデザイナーとして日本で働けるメーカー、もしくはデザイン事務所を捜しております。

事務局に履歴書、作品の写真がありますのでコンタクト希望の方は事務局までご連絡下さい。

Name: NAZANIN KAMALI

Adress: 7, Landor Rd, London, SW9 9RX

TEL: (071) 274-2468

Date of birth: 13.08.66

Nationality: British

Present job title: Free-lance Designer

- ③ 横浜在住のイタリア人のデザイナーが家具の設計の仕事を求めています。日本のメーカー及びイタリアのアルフレック社のために多くのデザインを提供しているデザイナーです。家具、照明器具が得意です。

Name: Fulvio Forbichini (フルビオ・フォルビチニ)

住所: 横浜市港北区茅ヶ崎南5-1-40

TEL: 045-942-7188

事務局に履歴書、作品の写真がありますのでコンタクト希望の方は事務局又は直接本人にお問い合わせ下さい。

Design Forum '93 公募展作品集

デザインフォーラム '93 公募展

主催 日本デザインコミッティー TEL 03-3561-2572

○募集内容

あらゆるデザイン分野(グラフィック、プロダクト、インテリア、エクステリア、テキスタイル、アーキテクト)などの作品、及び計画(図面など)を受け付けます。

○作品規定

1991年9月(デザインフォーラム'91)以降に制作、または発表された作品。

立体: H1950mm×W1600mm×D1500mm以内

平面: H2700mm×W1750mm×T100mm以内

重量: 200 kg/ m²以内

作品の裏にはすべて、作品名、作者名を明記した用紙を必ず貼付してください。チームの場合は応募票に、メンバー氏名と代表者の連絡先を明記してください。

○出品料

作品単体1点5000円

作品1シリーズ8000円(同一品種のセット又はデザインの統一されたグループ)

出品料は作品搬入時に提出してください。

ただし、輸送搬入の場合は、応募票と出品料を現金書留で下記の住所に送付してください。(7月23日必着)

〒104 東京都中央区銀座3-6-1 松屋北館4階

日本デザインコミッティー事務局

『デザインフォーラム'93』係

○賞

金賞1点・銀賞2点・銅賞3点・佳作5点

入賞者には、伊藤隆道デザインによる賞杯、亀倉雄策デザインによる賞状が、金賞には副賞(松屋賞)が贈られます。

○発表展示

1993年9月1日(水)～9月6日(月)

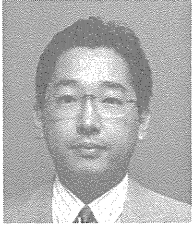
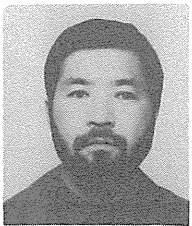
東京・松屋銀座8階大催場

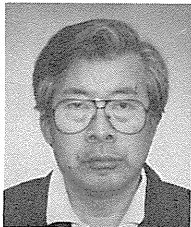
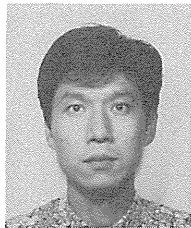
デザインフォーラム'93の入賞・入選作のほか、招待作家の作品を展示します。

応募要項及び応募票は事務局にありますのでご連絡下さい。

新入会員の紹介

●正会員

会員名及び番号		
鳥 井 貴 正 (会員番号1027) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)アトリエ NORTH 世田谷区鎌田3-12-16 ヴィアードステージ501 〒157 TEL 3417-1564 FAX 3417-1564 世田谷区鎌田3-12-16 ヴィアードステージ501 〒157 TEL 3417-1527 吉 良 ヒロノブ ・ 黒 田 秀 雄
碓 井 恵 里 (会員番号1028) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	日本設計事務所 新宿区西新宿2-1-1 三井ビル 50F 〒163-04 TEL 5381-6599 内線385 FAX 5381-6356 川崎市麻生区下麻生 441 〒215 TEL 044-988-0861 FAX 044-988-8296 中 川 帛 子 ・ 大 木 雅 彦
畑 中 弘 (会員番号1029) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	H20 (イチ・ツー・オー) デザイン アソシエイツ 渋谷区本町2-3-1 渋谷本町マンション34号 〒151 TEL 5351-2350 FAX 5351-2055 渋谷区本町5-40-16 〒151 TEL 3376-9240 長 岡 貞 夫 ・ 北 原 進
上 野 晴 彦 (会員番号1030) 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)ワーク 福岡市南区塩原4-12-20 〒815 TEL 092-552-2424 FAX 092-935-0814 福岡市南区塩原4-12-20 〒815 TEL 092-553-7113 山 永 耕 平 ・ 森 宣 雄

田 中 邦 子 (会員番号1031) 	<勤務先・事務所> (有)スタジオ F. D. G 群馬県前橋市問屋町2-13-2 宮武グリーンマンション302 〒371 TEL 0272-54-2241 FAX 0272-54-2241 <自 宅> 前橋市駒形町904-8 〒379-21 TEL 0272-66-1468 <推 薦 者> 山 本 其 観 代 ・ 山 品 元
松 山 嘉 男 (会員番号1032) 	<勤務先・事務所> (有)松山店舗デザイン設計事務所 京都府宇治市折居台1-4-49 〒611 TEL 0774-23-9217 FAL 0774-23-9213 <自 宅> 同上 <推 薦 者> 山 口 道 夫 ・ 宇 野 隆
五百蔵 祐 一 (会員番号1033) 	<勤務先・事務所> design aust pty ltd. 324 Rathdowne Street North Carlton Victoria 3054 Australia TEL 03-347-9671 FAX 03-347-9671 <自 宅> 柏市中原2-11-30 〒277 TEL 0471-75-9628 FAX 0471-75-3568 <推 薦 者> 内 田 次 彦 ・ 南 等

●賛助会員

会 員 名		住 所 ・ 電 話 及 び 担 当 者
株式会社 東京デザインセンター	住 所	品川区東五反田5-25-19 〒141 TEL 3445-1121 FAX 3445-1125
	担 当 者	副社長 船 曳 鴻 紅
	紹 介 者	下 島 資 子

会 員 の 異 動

(正 会 員)

会 員 名	異 動 事 項	新
相 沢 晴 夫 (関東 P 4 7)	事 務 所 移 転	武蔵野市御殿山 1 - 6 - 4 - 302 〒180 TEL 0422-41-4572 FAX 0422-49-2922
安 藤 勢 津 子 (関東 P 5 2)	自 宅 移 転	中央区佃 2 - 2 - 7 - 403 〒104 TEL 3532-0126
伊 藤 公 一 (関東 P 5 9)	事 務 所 移 転	世田谷区三軒茶屋 2 - 56 - 9 〒154 TEL 3419-8890 FAX 3419-2554
今 井 壮 一 (関東 P 6 2)	事 務 所 移 転	港区赤坂 8 - 5 - 4 〒107 TEL 5474-5421 FAX 5474-5422
内 田 正 雄 (関東 P 6 7)	事 務 所 移 転	中央区日本橋蛸殻町 2 - 10 - 30 澁澤蛸殻町ビル 7 F
内 村 麗 (関東 P 6 8)	自宅・事務所移転	渋谷区代々木 5 - 31 - 5 シティコート代々木417 〒151 TEL 3466-7666
尾 関 文 夫 (関東 P 8 0)	事 務 所 移 転	文京区白山 1 - 37 - 6 東信白山ビル 3 F 〒113 TEL 5689-0147 FAX 5689-0146
川 上 信 二 (関東 P 8 8)	事務所名称変更 ・移転	(有)フォルム エスケイアール 港区赤坂 9 - 6 - 28 アルベルゴ乃木坂1009 〒107 TEL・FAX 3403-2865
川 上 玲 子 (関東 P 8 8)	事務所名称変更	(有)フォルム エスケイアール・デザインスタジオ
道 明 三千代 (関東 P 1 4 0)	自 宅 移 転	八王子市散田町 1 - 9 - 7 久野様方 〒193 TEL 0426-61-2342

舟 橋 千 枝 (関東 P165)	F A X 変 更	FAX 3793-9883
山 田 素 志 (関東 会員番号949)	事 務 所 開 設	アーツデザイン事務所 静岡県三島市新谷47-6 〒411 TEL・FAX 0559-81-4126
山 本 桂 (関東 会員番号925)	転 勤	HOKKAIDO INTERIOR INSTITUTE MEXICO BRANCH Calle pipila #129 Col-Gpe del Moral Iztapalapa Mexico City TEL 694-7682
吉 田 富 一 (関東番号966)	事務所・自宅移転	事務所 品川区西五反田2-13-1 プレジデントハイツ五反田413 〒108 TEL 03-3491-7064 自 宅 大田区上池台1-13-1 メゾンユーアイ203 〒145 TEL 03-3720-8729
丹 尾 敬 吾 (中部 会員番号926)	事 務 所 移 転	福井市中央3丁目13-4 〒910
宇 野 隆 (関西 P249)	事 務 所 移 転	京都市中京区蛸薬師通り高倉西入ル泉正寺町323 松本ビル4F 〒604 TEL 075-213-4848 FAX 075-254-2198
加 藤 礼 三 (関西 P252)	自 宅 移 転	奈良市法蓮立花町258-5
奈 村 恭 子 (関西 会員番号910)	改 名	奈 村 今日子
花 田 眞 (関西 P271)	事 務 所 移 転	大阪市中央区南船場4-4-10 辰野新橋ビル6F 〒542 TEL 06-281-9028
鈴 木 恭 宏 (九州 P306)	自 宅 移 転	北九州市戸畑区土取町14-4 〒804 TEL 093-882-8139

(賛助会員)

専門学校 インテリアセンター スクール (賛助 P 3 3 1)	移 転	目黒区柿の木坂 1 - 5 - 6 〒152
(株) ミ ヤ マ (賛助 P 3 6 8)	社 名 変 更	スタッフナインハット(株)
(株) 高 島 屋 建装事業本部 (賛助 P 3 4 5)	住所・部署名・ 担当者変更	中央区日本橋茅場町 2 - 12 - 7 高島屋茅場町別館 〒103 TEL 3668-7443 FAX 3668-7479 設計室→設計部 東京設計室長 館 野 羊 一

お詫びと訂正

1992/11・12号の会員の異動で池邊武彦様のお名前と電話番号に間違いがございました。ここにお詫びを申し上げ、訂正させていただきます。

池 邊 武 彦 (関東 P 5 5)	事 務 所 移 転	文京区目白台 1 - 22 - 10 〒112 TEL 3943-0072 FAX 5395-6722
-----------------------	-----------	---

仙 台 デ ザ イ ン 専 門 学 校

宮城県仙台市木ノ下 2 - 8 - 27 〒983
(022)257-0760 佐藤善一 (インテリアデザイン 室長)

大 光 電 機 (株)

東京都墨田区両国 2 - 10 - 14 両国シティコア102
〒130
03(5600)-7773 高井宏行 (商環境営業所所長)

(株) 竹 中 工 務 店

東 京 本 店

東京都中央区銀座 8 - 21 - 1 〒104
(03)3542-7100 角幡 進 (設計部部長)

(株) 大 丸

装 工 事 業 部

大阪市西区南堀江 1 - 18 - 4 住友生命湊町MTビル 〒542
(06)538-5800 奥村真路 企画開発室課長

●事務局短信

- ① 数年続きの暖冬で桜の開花も3月24日頃との予報で
いよいよ春本番を迎えますが、流感と不況の嵐はまだ
収まらず、一日も早い回復が望まれます。I F I '95
名古屋の総合テーマや基本構想が発表され、I F I
次'95 委員会も本年9月開催のグラスゴー会議や実行委
I 員会への移行へ向けて準備を進めています。
を会員各位の積極的なご協力をよろしくお願いいたしま
す。
- ② 第24回通常総会が来る5月27日(木)に開催されま
す。この総会で平成5年度の事業計画(案)や収支予
算(案)等の議案が審議決定されます。また、当日夕
刻より、「1992年度協会賞」の贈賞式に続き、受賞記
念および総会パーティが来賓を迎え盛大に開催されま
す。お忙しいとは存じますが是非ご参加願います。総
会にご出席されない方は必ず委任状をお送り下さいま
すようお願いいたします。
- ③ 今号記事でお知らせの通り、坂田種男会員が「藍授
褒章」を、中川千年理事が「第20回国井喜太郎産業工
芸賞」を夫々受賞されました。J I Dとして大変栄誉

なことで、会員の皆様と共に心からお喜び申し上げま
す。

- ④ J I Dニュース11・12号の山品組織担当理事の記事
中で、組織の拡大と充実のため新しい入会書様式を
号に同封する旨お知らせしましたが、1月号はI F
特集のため今号に延期されました。遅くなったこと
お詫びいたします。
- ⑤ 平成5年度年会費請求書がお手元に届いたことと思
います。万事多端の折とは存じますが、協会の事業は
会費収入で運営されておりますので納入下さいますよ
うお願いいたします。なお、平成4年度会費未納の方
は権利停止の後、止むをえず退会手続きをとらせてい
ただきますので、大至急納入して下さい。(会費は会
員規定第7条により前納が原則です)
- ⑥ 本部事務局の田口康之、高木久美の両局員が間もな
く入局2年目を迎えます。会員各位の暖かいご指導と
ご理解のもとでやっと協会の仕事に慣れ、張りきって
います。これからもよろしくお願いいたします。

以 上

(株) 竹 中 工 務 店

大 阪 本 店

大阪市東区本町4-27 〒541
(06)252-1201 (内3350) 中馬宗武(意匠担当部長)

西 和 イ ン テ リ ア (株)

工場：埼玉県入間市狭山ヶ原松原108-15 〒358
(0429)34-1101

大塚行雄 { 取締役
環境開発営業部長

(株) 高 島 屋

建 装 事 業・本 部

東京都中央区日本橋茅場町2-12-7
高島屋茅場町別館 〒103

仲野勝夫(設計部長・大阪) (06)632-3091
館野羊一(東京設計室長) (03)3668-7443

(株) タ ジ マ

東京都台東区北上野1-6-11 ノルドビル 〒110
(03)3866-6101 三宅 平(営業本部ES第3部)

1993/2・3

頒価300円(送料共)

1993年3月20日発行

(社団法人日本インテリアデザイナー協会月報1991年通巻第175号)

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局
東京都渋谷区恵比寿南2-13-14 茶屋坂T&Kビル3F
☎ 03-5704-3421(代) F A X 03-5704-3423

印刷所・株式会社 ユリクリエイト
振替・東京 8-76389